

茅原大墓古墳

第1次～第6次発掘調査報告

2015.3.31

桜井市教育委員会

茅原大墓古墳

第1次～第6次発掘調査報告

2015.3.31

桜井市教育委員会



盾持人埴輪



車輪埴輪

序

私たちの桜井市は奈良盆地の東南部に位置し、市域の約7割を山地が占める自然の豊かなまちです。しかし近年は平地部を中心に開発が進み、市民生活の利便性が向上する一方で、かつての桜井市の姿が失われつつあります。市内には全国的にも注目される貴重な文化財が数多く分布しており、この地域が古代におけるわが国の中心地であったことが知られています。

そうした貴重な文化財の一つである茅原大墓古墳は、帆立貝形の墳丘形態がよく保存されており、昭和57年には国史跡に指定されています。桜井市ではこの茅原大墓古墳の史跡整備を計画しており、それに先立って平成20年度より国・県の補助を受けて発掘調査を実施してきました。本書では平成25年度までに得られた茅原大墓古墳の調査成果の内容をおさめております。

現地調査にあたりましては、多くの関係機関の方々や地主及び地元茅原区の皆様よりご指導・助言・ご協力を賜りました。また作業員・補助員の方々には、酷暑・厳寒のなか作業に従事していただき、出土遺物の整理・報告書の作成にあたっては整理員の方々に協力いただきました。あらためて深くご厚礼申し上げます。

本書が文化財の普及・啓発の一助となり、また研究者の方々の資するところとなれば当教育委員会としても望外の喜びであります。

平成27年3月31日

桜井市教育委員会

教育長 石 田 泰 敏

例 言

1. 本書は奈良県桜井市に所在する茅原大墓古墳の発掘調査報告書である。
2. 本書では第1次～第6次調査、墳丘測量調査、物理探査の成果を報告している。
3. 調査および整理作業は国・県から補助を受けて実施した。調査・整理の経過については第2章に記している。
4. 調査の主体は桜井市教育委員会であり、各年度の調査・整理体制については第2章に記している。
5. 本書の編集は福辻淳（桜井市教育委員会文化財課主任）が担当し、執筆は第1章～第3章、第5章の1・2・4・5、第7章の1・2・4を福辻がおこなった。第4章は西口和彦氏（桜小路電機株式会社）、第5章の3及び第7章の3は橘泉氏（甲賀市水口歴史民俗資料館）、第6章は奥田尚氏（奈良県立橿原考古学研究所）に執筆いただいた。
6. 本書における方位・座標はすべて世界測地系によるものを示し、旧日本測地系を併記する場合は（ ）付で表記した。方位は座標北を表し、標高はすべて海拔高（T.P）を表す。
7. 本書記載の遺物実測図の断面は、土師器・土師質系のもの－白、須恵器－黒、金属製品－斜線とした。
8. 図版の遺物番号は、該当する各節の図の遺物番号に対応する。
9. 現地調査および整理作業に際しては、多くの方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。
10. 茅原大墓古墳の調査成果の一部については、これまでに概要報告書などで既に報告している。これらの中には本書の記述と異なる解釈や数値が含まれる場合があるが、その後の調査成果を踏まえて検討した本書の記述をもって、現段階における認識とする。
11. 出土遺物をはじめ調査記録一切は、桜井市教育委員会の管理のもと、桜井市立埋蔵文化財センターにおいて保管している。活用されたい。

目 次

巻頭図版

序

例言

目次

第1章	位置と環境	(福辻 淳)	1
	1. 地理的環境		1
	2. 歴史的環境		2
	3. 茅原大墓古墳の周辺環境		5
	4. 茅原大墓古墳の研究史		7
第2章	調査の経緯と経過	(福辻)	11
	1. 調査に至る経緯		11
	2. 調査の経過		11
	(1) 調査の種類		11
	(2) ため池改修工事に先立つ調査		12
	(3) 史跡整備に先立つ調査		13
	3. 発掘調査・整理作業		19
	(1) 調査・整理体制		19
	(2) 報告書作成		22
第3章	発掘調査の成果	(福辻)	23
	1. 古墳の現状と調査区の配置		23
	(1) 古墳の現状		23
	(2) 調査区の配置		26
	2. 墳丘上の発掘調査		27
	(1) 3-2 トレンチ		27
	(2) 3-3 トレンチ		30
	(3) 3-4 トレンチ		37
	(4) 4-5 トレンチ、5-1 トレンチ		40
	(5) 5-2 トレンチ		46
	(6) 小結		50
	3. 墳丘周辺の発掘調査		51
	(1) 3-5 トレンチ		51
	(2) 1-1 トレンチ		51
	(3) 1-2 トレンチ		52
	(4) 4-1 トレンチ		54
	(5) 4-2 トレンチ		56
	(6) 2 トレンチ		61
	(7) 4-3・4 トレンチ、5-3 トレンチ		64
	(8) 4-6 トレンチ		69
	(9) 6-1 トレンチ、6-2 トレンチ		72
	(10) 3-1 トレンチ		76
	(11) 小結		78

第4章	物理探査の成果	(西口 和彦)	79
	1. はじめに		79
	2. 探査の方法と測定範囲		79
	(1) 電気探査		79
	(2) 地中レーダー探査		79
	3. 探査成果		80
	(1) 電気探査		80
	(2) 地中レーダー探査		80
	4. おわりに(探査成果の解析)		81
第5章	出土遺物		89
	1. 出土遺物の概要	(福辻)	89
	2. 円筒埴輪と壺形埴輪	(福辻)	90
	(1) 概要		90
	(2) 円筒埴輪の特徴		90
	(3) 壺形埴輪の特徴		95
	(4) 埴輪列を構成する埴輪		97
	(5) 各トレンチ出土の円筒埴輪		100
	(6) 各トレンチ出土の壺形埴輪		107
	(7) 埴輪棺に使用された埴輪		110
	(8) 小結		117
	3. 形象埴輪	(橘 泉)	120
	(1) 蓋形埴輪		120
	(2) 鳥形埴輪		121
	(3) 盾持人埴輪		122
	(4) 不明形象埴輪		126
	4. 埴輪棺1の鉄製品	(福辻)	127
	5. 古墳築造以前と以後の遺物	(福辻)	128
	(1) 古墳築造以前の遺物		128
	(2) 古墳築造以後の遺物		128
第6章	茅原大墓古墳の葺石の石種とその採石地	(奥田 尚)	150
	1. 第2次調査の葺石の石種とその使用傾向		150
	(1) 石種の特徴		150
	(2) 石材の使用傾向		150
	2. 第3次調査の葺石の石種とその使用傾向		150
	(1) 石種の特徴		151
	(2) 石材の使用傾向		151
	3. 第4次調査の葺石の石種とその使用傾向		152
	(1) 石種の特徴		152
	(2) 石材の使用傾向		156
	4. 第5次調査の葺石の石種とその使用傾向		156
	(1) 石材の石種		156
	(2) 石材の使用傾向		156
	5. 石材の採取推定地		160
	6. 石材の使用傾向		161

第7章 総括	163
1. 茅原大墓古墳の全体像の復元.....(福辻)	163
(1) 墳丘の形態	163
(2) 盛土と葺石	166
(3) 埴輪の配列と埴輪棺	167
(4) 渡土堤	168
(5) 周濠の形態	169
2. 茅原大墓古墳の評価.....(福辻)	169
(1) 築造時期	169
(2) 茅原大墓古墳の歴史的意義.....	170
3. 盾持人埴輪について.....(橘)	173
(1) はじめに	173
(2) 盾持人埴輪の研究	174
(3) 盾持人埴輪の形態的特徴.....	175
(4) 盾持人埴輪の製作技法	176
(5) 盾持人埴輪の配置位置と樹立古墳の規模.....	177
(6) まとめ	177
4. さいごに.....(福辻)	178

抄録
奥付

表 目 次

表1 茅原大墓古墳発掘調査一覧.....	12
表2 世界測地系.....	79
表3 円筒埴輪の分類.....	94
表4 円筒埴輪・壺形埴輪の配置	119
表5 円筒埴輪観察表.....	133~146
表6 壺形埴輪観察表.....	147~149
表7 2トレンチの葺石の粒径	151
表8 3-3トレンチの葺石の石種とみかけの長径	152
表9 第4次調査トレンチの葺石とその長径	155
表10 5-1トレンチの葺石の石種とその粒径	159
表11 5-2トレンチの葺石の石種とその粒径	159
表12 5-3トレンチ渡土堤東側の葺石の石種とその粒径	159
表13 5-3トレンチ渡土堤西側の葺石の石種とその粒径	159
表14 茅原大墓古墳の葺石の石種と粒径	162
表15 大和・柳本・纏向古墳群の古墳一覧	172

挿 図 目 次

図 1	桜井市の位置	1
図 2	桜井市北西部の遺跡分布図 (S = 1/30,000)	3
図 3	茅原大墓古墳周辺の遺跡分布 (S = 1/8,000)	6
図 4	茅原大墓古墳墳丘見取図	7
図 5	茅原大墓古墳の墳丘図	8
図 6	史跡指定範囲と公有地化範囲 (S = 1/1,500)	11
図 7	第 1 次調査トレンチ位置 (S = 1/2,000)	13
図 8	第 2 次調査トレンチ位置 (S = 1/2,000)	13
図 9	第 3 次調査トレンチ位置 (S = 1/2,000)	14
図 10	第 4 次調査トレンチ位置 (S = 1/2,000)	16
図 11	第 5 次調査トレンチ位置 (S = 1/2,000)	17
図 12	第 6 次調査トレンチ位置 (S = 1/2,000)	18
図 13	茅原大墓古墳墳丘測量図 (S = 1/800)	24
図 14	茅原大墓古墳トレンチ位置図 (S = 1/800)	25
図 15	3 - 2 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	28
図 16	後円部頂西側の埴輪列 (S = 1/30、3 - 2 トレンチ)	29
図 17	3 - 3 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	31・32
図 18	後円部 2 段目北側の葺石 (S = 1/40、3 - 3 トレンチ)	34
図 19	後円部頂北側の埴輪列 (S = 1/30、3 - 3 トレンチ)	35
図 20	後円部 2 段目北側の埴輪列 (S = 1/30、3 - 3 トレンチ)	36
図 21	3 - 3 トレンチ木棺墓 (S = 1/20)	37
図 22	3 - 4 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	38
図 23	後円部 2 段目南側の埴輪列 (S = 1/30、3 - 4 トレンチ)	39
図 24	4 - 5、5 - 1 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	40
図 25	4 - 5 トレンチ西側転落石・埴輪出土状況 (S = 1/40)	41
図 26	後円部 2 段目北側の葺石 (S = 1/40、4 - 5 トレンチ)	41
図 27	埴輪棺 1 平面・断面・立面図 (S = 1/40)	43
図 28	埴輪棺 1 における壺形埴輪使用状況 (S = 1/40)	44
図 29	埴輪棺 1 における円筒埴輪使用状況 (S = 1/40)	44
図 30	東側くびれ部 2 段目の葺石 (S = 1/40)	45
図 31	5 - 2 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	46
図 32	後円部 1 段目の埴輪列 (S = 1/30、5 - 2 トレンチ)	47
図 33	埴輪棺 2 平面・断面図 (S = 1/40)	48
図 34	埴輪棺 2 における埴輪使用状況 (S = 1/40)	48
図 35	西側くびれ部 2 段目の葺石 (S = 1/40)	50
図 36	3 - 5 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	51
図 37	1 - 1 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	53
図 38	1 - 2 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	53
図 39	4 - 1 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	55
図 40	後円部 1 段目東側の葺石 (S = 1/40)	56
図 41	4 - 2 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	57
図 42	東側くびれ部 1 段目の葺石と盾持人埴輪基部	58
図 43	東側くびれ部付近の転落石・遺物出土状況 (S = 1/40)	59
図 44	盾持人埴輪 (268) 基部平面・断面図 (S = 1/20)	61

図45	2 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	62
図46	前方部東側1段目の葺石 (S = 1/40)	63
図47	各調査時のトレンチの形態 (S = 1/500)	64
図48	4 - 3・4、5 - 3 トレンチ平面図 (S = 1/100)	65
図49	4 - 3・4、5 - 3 トレンチ土層断面図 (S = 1/100)	67
図50	前方部北東隅と渡土堤東側の葺石 (S = 1/40)	68
図51	前方部前面と渡土堤西側の葺石 (S = 1/40)	68
図52	4 - 6 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	70
図53	前方部前面1段目の葺石 (S = 1/40)	71
図54	6 - 1 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	73
図55	6 - 2 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	74
図56	6 - 1、6 - 2 トレンチと周濠 (S = 1/200)	75
図57	3 - 1 トレンチ平面・断面図 (S = 1/100)	77
図58	探査測定範囲図	82
図59	電気探査成果図	83
図60	東西走査断面成果図 (L - 9・L - 12・L - 15・L - 17・L - 20)	84
図61	東西走査平面図1	85
図62	東西走査平面図2	86
図63	南北走査断面成果図 (L - 4・L - 8・L - 14・L - 17・L - 22)	87
図64	南北走査平面図	88
図65	掘方推定図	88
図66	円筒埴輪・壺形埴輪の部分名称図	89
図67	円筒埴輪底部径の分布	91
図68	円筒埴輪口径の分布	91
図69	円筒埴輪の口縁形態の分類 (S = 1/6)	92
図70	円筒埴輪の突帯形態の分類 (S = 1/6)	92
図71	後円部頂埴輪列の埴輪 (S = 1/6)	98
図72	後円部2段目埴輪列の埴輪 (S = 1/6)	99
図73	後円部1段目埴輪列の埴輪 (S = 1/6)	100
図74	2 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	101
図75	3 - 2 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	102
図76	3 - 3 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	103
図77	3 - 4 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	103
図78	4 - 1、4 - 2 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	104
図79	4 - 5 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	105
図80	4 - 6 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	105
図81	5 - 1 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	106
図82	5 - 2 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	106
図83	5 - 3 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	106
図84	6 - 2 トレンチ出土円筒埴輪 (S = 1/6)	107
図85	第3次調査トレンチ出土壺形埴輪 (S = 1/6)	109
図86	第4次調査トレンチ出土壺形埴輪 (S = 1/6)	109
図87	第5次調査トレンチ出土壺形埴輪 (S = 1/6)	110
図88	埴輪棺1に使用された埴輪① (S = 1/6)	111
図89	埴輪棺1に使用された埴輪② (S = 1/6)	112
図90	埴輪棺1に使用された埴輪③ (S = 1/6)	113
図91	埴輪棺2に使用された埴輪 (S = 1/6)	116
図92	配置位置別の円筒埴輪底部径の分布	117

図93	蓋形埴輪① (S = 1/6)	120
図94	蓋形埴輪② (S = 1/6)	121
図95	鳥形埴輪 (S = 1/6)	122
図96	盾持人埴輪① (S = 1/6)	123
図97	盾持人埴輪② (S = 1/6)	124
図98	盾持人埴輪 (268) 復元図 (S = 1/6)	125
図99	不明形象埴輪 (S = 1/6)	127
図100	埴輪棺 1 出土鉄製品 (S = 1/2)	128
図101	墳丘盛土出土土器 (S = 1/4)	128
図102	木棺墓出土鉄製品 (S = 1/2)	129
図103	茅原大墓古墳築造後の遺物① (S = 1/6)	130
図104	茅原大墓古墳築造後の遺物② (S = 1/4)	131
図105	茅原大墓古墳築造後の遺物③ (S = 1/2)	132
図106	2 トレンチ葺石の石種 (S = 1/40)	150
図107	3 - 3 トレンチ葺石の石種 (S = 1/40)	152
図108	第 4 次調査トレンチの葺石の石種① (S = 1/40)	153
図109	第 4 次調査トレンチの葺石の石種② (S = 1/40)	154
図110	第 5 次調査トレンチの葺石の石種① (S = 1/40)	157
図111	第 5 次調査トレンチの葺石の石種② (S = 1/40)	158
図112	茅原大墓古墳復元図 (S = 1/800)	165
図113	大和・柳本・纏向古墳群の古墳分布 (S = 1/25,000)	171
図114	茅原大墓古墳盾持人埴輪 模式図	174
図115	盾持人埴輪 西日本分布図	174
図116	盾持人埴輪頭部比較 (S = 1/10)	175
図117	支持具使用状況	176

写 真 目 次

写真 1	第 2 次調査の様子	13
写真 2	第 3 次調査の様子	15
写真 3	第 4 次調査の様子	16
写真 4	第 4 次調査現地説明会の様子	17
写真 5	第 5 次調査の様子	17
写真 6	第 5 次調査現地説明会の様子	18
写真 7	第 6 次調査の様子	19
写真 8	物理探査の様子	19
写真 9	地中レーダー探査風景	80
写真10	円筒埴輪 (9) の方形刺突	93
写真11	突帯上面に及ぶタテハケ (236)	93
写真12	円筒埴輪 (93) と (230) のハケメ (S ≒ 1/1)	93
写真13	盾面裏側の支持具剥離痕	176

図 版 目 次

巻頭図版 1

盾持人埴輪

巻頭図版 2

円筒埴輪

図版 1 茅原大墓古墳遠景

茅原大墓古墳と三輪山

(第 6 次調査時、西より)

茅原大墓古墳と箸墓古墳

(第 5 次調査時、南東より)

図版 2 茅原大墓古墳の現況

茅原大墓古墳の現況①

(第 5 次調査後、西より)

茅原大墓古墳の現況②

(第 5 次調査後、北東より)

図版 3 茅原大墓古墳全景 (1)

茅原大墓古墳全景①

(第 1 次調査後、左下が北)

茅原大墓古墳全景②

(第 2 次調査時、下が北)

図版 4 茅原大墓古墳全景 (2)

茅原大墓古墳全景③

(第 3 次調査時、下が北)

茅原大墓古墳全景④

(第 4 次調査時、下が北)

図版 5 茅原大墓古墳全景 (3)

茅原大墓古墳全景⑤

(第 5 次調査時、下が北)

茅原大墓古墳全景⑥

(第 6 次調査時、下が北)

図版 6 3-2 トレンチ (1)

後円部のトレンチ①

(第 3 次調査、下が北)

後円部のトレンチ②

(第 3 次調査、西より)

図版 7 3-2 トレンチ (2)

トレンチ全景① (西より)

トレンチ全景② (東より)

図版 8 3-2 トレンチ (3)

後円部頂西側の埴輪列①

(上面検出状況、北より)

後円部頂西側の埴輪列② (北西より)

図版 9 3-2 トレンチ (4)

円筒埴輪 (1) 出土状況 (西より)

円筒埴輪 (3)・(4) 出土状況 (西より)

円筒埴輪 (2) 出土状況 (西より)

後円部頂西側埴輪列 断ち割り断面

(北西より)

図版 10 3-2 トレンチ (5)

トレンチ南壁の土層 (北西より)

トレンチ中央付近の埴輪片集積状況

(北西より)

後円部頂付近の墳丘盛土断面 (北西より)

図版 11 3-3 トレンチ (1)

3-3 トレンチ設置状況 (北より)

3-3 トレンチ全景① (左が北)

図版 12 3-3 トレンチ (2)

3-3 トレンチ全景② (南より)

3-3 トレンチ全景③ (北より)

図版 13 3-3 トレンチ (3)

後円部頂北側の埴輪列①

(上面検出状況、西より)

後円部頂北側の埴輪列②

(北東より)

図版 14 3-3 トレンチ (4)

後円部頂北側埴輪列の掘方断面 (西より)

円筒埴輪 (6) 出土状況 (北より)

円筒埴輪 (8) 出土状況 (北より)

円筒埴輪 (9) 出土状況 (北より)

円筒埴輪 (10) 出土状況 (北より)

円筒埴輪 (7) 出土状況 (北より)

図版 15 3-3 トレンチ (5)

後円部頂北側埴輪列の土層断面

(北東より)

円筒埴輪 (8) 内埋土の断面 (北より)

円筒埴輪 (9) 内埋土の断面 (北より)

- 円筒埴輪 (10) 内埋土の断面 (北より)
掘方完掘状況 (北東より)
- 図版16 3-3 トレンチ (6)
後円部 2 段目北側の埴輪列①
(上面検出時、西より)
後円部 2 段目北側の埴輪列② (北東より)
- 図版17 3-3 トレンチ (7)
後円部 2 段目北側の埴輪列③ (北西より)
円筒埴輪 (14) 出土状況 (北より)
円筒埴輪 (14) 内埋土の断面 (北より)
円筒埴輪 (15) 内埋土の断面 (北より)
円筒埴輪 (16)・(17) 内埋土の断面
(北より)
- 図版18 3-3 トレンチ (8)
後円部 2 段目北側の埴輪列④
(埴輪内埋土完掘後、北より)
後円部 2 段目北側の埴輪列⑤
(埴輪内埋土完掘後、西より)
後円部 2 段目平坦面と埴輪列 (北西より)
掘方完掘状況 (北東より)
- 図版19 3-3 トレンチ (9)
後円部 2 段目北側 転落石検出状況
(北西より)
後円部 2 段目北側の葺石① (北西より)
後円部 2 段目北側の葺石② (北より)
- 図版20 3-3 トレンチ (10)
後円部 2 段目北側の葺石③ (西より)
木棺墓埋土断面 (西より)
木棺墓鉄釘出土状況 (南より)
- 図版21 3-3 トレンチ (11)
後円部北側斜面 (北西より)
後円部頂北側の墳丘盛土断面 (南西より)
後円部北側斜面の墳丘盛土断面
(北西より)
- 図版22 3-3 トレンチ (12)
前方部上面の土層① (北西より)
葺石裏側の墳丘盛土断面 (北西より)
前方部上面の近世溝 (西より)
- 図版23 3-3 トレンチ (13)
前方部上面の土層② (南西より)
トレンチ北端付近の墳丘盛土断面
(南西より)
- 図版24 3-4 トレンチ (1)
トレンチ埋め戻し後の状況 (北より)
トレンチ全景① (南より)
トレンチ全景② (北より)
- 図版25 3-4 トレンチ (2)
後円部 2 段目南側の埴輪列①
(上面検出時、南より)
後円部 2 段目南側の埴輪列②
(上面検出時、西より)
- 図版26 3-4 トレンチ (3)
後円部 2 段目南側の埴輪列③ (西より)
後円部 2 段目南側の埴輪列④ (南より)
- 図版27 3-4 トレンチ (4)
円筒埴輪 (12) 出土状況 (南西より)
円筒埴輪 (11) 出土状況 (北西より)
埴輪列断ち割り断面 (南より)
- 図版28 3-4 トレンチ (5)
後円部頂南側の墳丘盛土断面 (南西より)
後円部南側斜面の墳丘盛土断面①
(南西より)
後円部南側斜面の墳丘盛土断面②
(南西より)
- 図版29 4-5 トレンチ (1)
トレンチ全景 (下が北)
トレンチ西側 埴輪・転落石出土状況①
(北東より)
- 図版30 4-5 トレンチ (2)
トレンチ西側 埴輪・転落石出土状況②
(北より)
壺形埴輪 (185) 出土状況 (北より)
- 図版31 4-5 トレンチ (3)
後円部北側 2 段目の葺石①
(北東より)
後円部北側 2 段目の葺石②
(北より)
- 図版32 4-5 トレンチ (4)
埴輪棺 1 墓壙上面検出状況①
(北西より)
埴輪棺 1 墓壙上面検出状況②
(南西より)

	埴輪棺 1 墓壙上面検出状況③ (南東より)		東側くびれ部 2 段目の葺石① (北より)
図版33	4-5 トレンチ (5) 埴輪棺 1 墓壙埋土断面① (南西より) 埴輪棺 1 墓壙埋土断面② (北西より) 埴輪棺 1 墓壙埋土断面③ (北西より)	図版43	5-1 トレンチ (2) 東側くびれ部 2 段目の葺石② (南より) 東側くびれ部 2 段目の葺石③ (南西より)
図版34	4-5 トレンチ (6) 埴輪棺 1 棺上面検出状況① (北西より) 埴輪棺 1 棺上面検出状況② (南東より)	図版44	5-2 トレンチ (1) トレンチ全景① (下が北) トレンチ全景② (北側拡張前、東より)
図版35	4-5 トレンチ (7) 埴輪棺 1 棺上面検出状況③ (南西より) 埴輪棺 1 棺上面検出状況④ (北東より)	図版45	5-2 トレンチ (2) 西側くびれ部 2 段目 転落石検出状況 (北西より) 西側くびれ部 2 段目の葺石① (北西より)
図版36	4-5 トレンチ (8) 鉄製品 (284~286) 出土状況 (北東より) 鉄製品 (287) 出土状況① (北西より) 鉄製品 (287) 出土状況② (北西より)	図版46	5-2 トレンチ (3) 西側くびれ部 2 段目の葺石② (南より) 西側くびれ部 2 段目の葺石③ (西より)
図版37	4-5 トレンチ (9) 埴輪棺 1 棺内検出状況① (北西より) 埴輪棺 1 棺内検出状況② (南東より)	図版47	5-2 トレンチ (4) トレンチ北壁の土層 (拡張前、南西より) 後円部 1 段目埴輪列付近の遺物出土状況 (西より)
図版38	4-5 トレンチ (10) 埴輪棺 1 棺内検出状況③ (南西より) 埴輪棺 1 棺内検出状況④ (北東より)	図版48	5-2 トレンチ (5) 後円部 1 段目の埴輪列① (上面検出状況、南東より) 後円部 1 段目の埴輪列② (東より)
図版39	4-5 トレンチ (11) 埴輪棺 1 棺側・棺下の埴輪片① (南東より) 埴輪棺 1 棺側・棺下の埴輪片② (西より) 埴輪棺 1 墓壙完掘状況 (西より)	図版49	5-2 トレンチ (6) 円筒埴輪 (18~20) 内埋土の断面 (南東より) 掘方完掘状況 (南東より) 後円部 2 段目基底と埴輪列 (西より)
図版40	4-5 トレンチ (12) 前方部 2 段目東側面 転落石検出状況① (北東より) 前方部 2 段目東側面 転落石検出状況② (南東より)	図版50	5-2 トレンチ (7) 埴輪棺 2 検出状況 (北側拡張前、南より) 埴輪棺 2 墓壙上面検出状況 (西より) 埴輪棺 2 墓壙上層埋土断面 (西より)
図版41	4-5 トレンチ (13) 前方部 2 段目東側面の葺石① (北東より) 前方部 2 段目東側面の葺石② (南東より)	図版51	5-2 トレンチ (8) 墳丘 2 段目斜面の葺石と埴輪棺 2 (北西より) 埴輪棺 2 棺上面検出状況① (西より)
図版42	5-1 トレンチ (1) 東側くびれ部 2 段目 転落石検出状況 (北より)	図版52	5-2 トレンチ (9) 埴輪棺 2 棺上面検出状況② (南より) 埴輪棺 2 上面埴輪除去後 (左が北) 埴輪棺 2 墓壙完掘状況 (西より)
		図版53	5-2 トレンチ (10) 埴輪棺 3 墓壙上面検出状況 (左下が北)

- 埴輪棺3 内側の状況(東より)
 埴輪棺3 南西小口部分(北東より)
- 図版54 3-5 トレンチ
 トレンチ全景①(南より)
 トレンチ全景②(北より)
 トレンチ東壁の土層断面(南西より)
- 図版55 1-1 トレンチ、1-2 トレンチ
 1-1 トレンチ(西より)
 後円部南西側の転落石
 (西より、1-1 トレンチ)
 1-2 トレンチ(東より)
- 図版56 4-1 トレンチ(1)
 周濠埋土上面検出状況①(東より)
 周濠埋土上面検出状況②(西より)
 周濠中層埋土検出状況①(北東より)
- 図版57 4-1 トレンチ(2)
 周濠中層埋土検出状況②(東より)
 周濠中層埋土検出状況③(西より)
 転落石・腐植層検出状況①(北東より)
- 図版58 4-1 トレンチ(3)
 転落石・腐植層検出状況②(東より)
 転落石・腐植層検出状況③(西より)
 転落石検出状況(北東より)
- 図版59 4-1 トレンチ(4)
 周濠埋土完掘状況①(東より)
 周濠埋土完掘状況②(西より)
- 図版60 4-1 トレンチ(5)
 後円部1段目東側の葺石①(北東より)
 後円部1段目東側の葺石②(東より)
- 図版61 4-1 トレンチ(6)
 周濠内埋土断面(北西より)
 茅原大墓古墳後円部と4-1 トレンチ
 (東より)
- 図版62 4-1 トレンチ(7)
 後円部東端付近の周濠内埋土(北より)
 墳丘残存部の上面(北東より)
 墳丘盛土の断面(北より)
- 図版63 4-2 トレンチ(1)
 第4次調査時のトレンチ(下が北)
 4-2 トレンチ全景(下が北)
- 図版64 4-2 トレンチ(2)
 周濠埋土上面検出状況①(東より)
 周濠埋土上面検出状況②(南東より)
 周濠埋土上面検出状況③(北より)
- 図版65 4-2 トレンチ(3)
 周濠内の遺物・転落石検出状況①(東より)
 周濠内の遺物・転落石検出状況②(北より)
- 図版66 4-2 トレンチ(4)
 周濠内の遺物・転落石検出状況③(北西より)
 円筒埴輪(92・93)出土状況(東より)
 盾持人埴輪(268)顔面部破片の出土状況
 (東より)
- 図版67 4-2 トレンチ(5)
 周濠内埋土完掘状況①(東より)
 周濠内埋土完掘状況②(北より)
- 図版68 4-2 トレンチ(6)
 周濠内埋土完掘状況③(南東より)
 東側くびれ部1段目の葺石(東より)
- 図版69 4-2 トレンチ(7)
 盾持人埴輪基部とくびれ部基底
 (北東より)
 盾持人埴輪盾面部の破片出土状況
 (東より)
 盾持人埴輪基部内上層遺物出土状況
 (北より)
- 図版70 4-2 トレンチ(8)
 盾持人埴輪基部内下層遺物出土状況
 (北より)
 盾持人埴輪基部内遺物取り上げ後
 (北より)
 盾持人埴輪基部 掘方内埋土断面(北東より)
- 図版71 2 トレンチ(1)
 周濠埋土上面検出状況
 (南側拡張前、南東より)
 トレンチ全景(南東より)
- 図版72 2 トレンチ(2)
 転落石検出状況(東より)
 前方部1段目東側面の葺石①(東より)
- 図版73 2 トレンチ(3)
 前方部1段目東側面の葺石②(南東より)
 周濠埋土断面(北東より)

- 図版74 2トレンチ（4）
前方部基底付近の盛土断面（北より）
葺石裏側の盛土断面（北より）
トレンチ東端の周濠埋土断面（北より）
- 図版75 4－3・4トレンチ（1）
4－4トレンチ周濠上面検出状況
（トレンチ結合前、南西より）
4－4トレンチ転落石検出状況
（トレンチ結合前、南西より）
4－3トレンチ周濠上面検出状況
（トレンチ結合前、北より）
- 図版76 4－3・4トレンチ（2）
周濠中層埋土検出状況①（北東より）
周濠中層埋土検出状況②（南西より）
- 図版77 4－3・4トレンチ（3）
トレンチ北側 転落石検出状況（北より）
トレンチ北側 周濠埋土完掘状況（北より）
- 図版78 4－3・4トレンチ（4）
トレンチ南壁の土層断面（東より）
渡土堤及び周濠底面の盛土断面（東より）
トレンチ全景（北東より）
- 図版79 5－3トレンチ（1）
トレンチ全景（下が北）
茅原大墓古墳墳丘と5－3トレンチ
（北東より）
- 図版80 5－3トレンチ（2）
周濠埋土上面検出状況①（北東より）
周濠埋土上面検出状況②（南西より）
周濠埋土上面検出状況③（南東より）
- 図版81 5－3トレンチ（3）
渡土堤周辺 転落石検出状況①（南西より）
渡土堤周辺 転落石検出状況②（北東より）
- 図版82 5－3トレンチ（4）
渡土堤東側の転落石検出状況（東より）
渡土堤西側の転落石検出状況（北より）
- 図版83 5－3トレンチ（5）
渡土堤検出状況①（南西より）
渡土堤検出状況②（北東より）
- 図版84 5－3トレンチ（6）
渡土堤検出状況③（南東より）
渡土堤検出状況④（北西より）
- 図版85 5－3トレンチ（7）
前方部北東隅と渡土堤東側の葺石①
（東より）
前方部北東隅と渡土堤東側の葺石②
（南より）
- 図版86 5－3トレンチ（8）
前方部前面と渡土堤西側の葺石①
（北より）
前方部前面と渡土堤西側の葺石②
（西より）
- 図版87 5－3トレンチ（9）
前方部東側の周濠埋土断面（北より）
前方部前面の周濠埋土断面（北東より）
渡土堤西側の周濠埋土断面（南西より）
- 図版88 5－3トレンチ（10）
渡土堤断ち割り断面①（南東より）
渡土堤断ち割り断面②（南西より）
渡土堤断ち割り断面③（南より）
- 図版89 4－6トレンチ（1）
周濠埋土上面検出状況（北より）
転落石検出状況（北より）
- 図版90 4－6トレンチ（2）
前方部前面の転落石
（北西より）
前方部前面1段目の葺石①（北西より）
- 図版91 4－6トレンチ（3）
前方部前面1段目の葺石②（北より）
茅原大墓古墳墳丘と4－6トレンチ
（北より）
- 図版92 4－6トレンチ（4）
トレンチ全景①（北より）
トレンチ全景②（南より）
- 図版93 4－6トレンチ（5）
トレンチ南端付近の土層（北西より）
周濠外側の立ち上がり（西より）
周濠埋土断面（南西より）
- 図版94 6－1トレンチ、6－2トレンチ（1）
茅原大墓古墳墳丘と第6次調査地
（北西より）
第6次調査地全景（下が北）

- 図版95 6-1 トレンチ、6-2 トレンチ (2)
6-1 トレンチ周濠埋土上面検出状況
(拡張前、西より)
6-1 トレンチ周濠埋土完掘状況
(西より)
- 図版96 6-1 トレンチ、6-2 トレンチ (3)
6-2 トレンチ周濠埋土上面検出状況
(北より)
6-2 トレンチ転落石・埴輪検出状況
(北より)
6-2 トレンチ周濠埋土完掘状況
(北より)
- 図版97 6-1 トレンチ、6-2 トレンチ (4)
東側周濠埋土検出状況
(6-1 トレンチ、南東より)
転落石検出状況
(6-1 トレンチ東側、南東より)
東側周濠埋土完掘状況
(6-1 トレンチ、南東より)
- 図版98 6-1 トレンチ、6-2 トレンチ (5)
6-1 トレンチ北壁 周濠埋土断面
(南西より)
6-1 トレンチ南壁 周濠埋土断面
(北西より)
渡土堤状遺構 (南西より)
- 図版99 3-1 トレンチ (1)
遺構上面検出状況 (西より)
落ち込み1 (北西より)
落ち込み2 (南西より)
- 図版100 3-1 トレンチ (2)
土坑1 埋土断面 (南より)
土坑1 完掘状況 (南より)
トレンチ全景 (西より)
- 図版101 出土遺物 (1)
円筒埴輪①
- 図版102 出土遺物 (2)
円筒埴輪②
- 図版103 出土遺物 (3)
円筒埴輪③
- 図版104 出土遺物 (4)
円筒埴輪④
- 図版105 出土遺物 (5)
円筒埴輪⑤
- 図版106 出土遺物 (6)
円筒埴輪⑥
- 図版107 出土遺物 (7)
円筒埴輪⑦
- 図版108 出土遺物 (8)
円筒埴輪⑧
- 図版109 出土遺物 (9)
壺形埴輪①
- 図版110 出土遺物 (10)
壺形埴輪②
- 図版111 出土遺物 (11)
埴輪棺に使用された埴輪①
- 図版112 出土遺物 (12)
埴輪棺に使用された埴輪②
- 図版113 出土遺物 (13)
埴輪棺に使用された埴輪③
- 図版114 出土遺物 (14)
埴輪棺に使用された埴輪④
蓋形埴輪①
- 図版115 出土遺物 (15)
蓋形埴輪②
鳥形埴輪
- 図版116 出土遺物 (16)
盾持人埴輪①
- 図版117 出土遺物 (17)
盾持人埴輪②
- 図版118 出土遺物 (18)
盾持人埴輪③
不明形象埴輪
- 図版119 出土遺物 (19)
埴輪棺1 出土遺物
墳丘盛土出土遺物
木棺墓出土遺物
古墳築造後の遺物①
- 図版120 出土遺物 (20)
古墳築造後の遺物②

第1章 位置と環境

1. 地理的環境

茅原大墓古墳が所在する桜井市は、奈良県北部に位置する人口約6万人、面積98.93km²の都市であり、北は天理市・奈良市、西は田原本町・橿原市、南は明日香村・吉野町、東は宇陀市と境を接している。鉄道・道路網により大阪・京都などの大都市部と結ばれ、近郊都市としての様相が見られるが、いっぽうで三輪そうめんや木材・木製品工業などの地場産業が発達し、また数多くの文化財を有する観光都市としての側面を持っている。

桜井市域の標高はおおよそ60mから900m以上に及んでおり、標高100m前後を境として平地部と山地部に分けることができる。山地部は市域の約3/4を占めており、標高800mを超える山々が連なる。北東部の大和高原では初瀬川が南流し、南部の竜門山地では寺川が北流してそれぞれ浸食谷を形成し、平地部へと至っている。

平地部は北西部分に広がり、市域全体の約1/4を占めている。奈良盆地の東南部に相当し、条里地割に基づく水田地帯に塊村形態を示す集落が点在する景観は、この地域が古くから農耕地域として発達してきたことを表している。

なお市域から北西側には低平な奈良盆地が広がり、山地部の背後にあたる南東側には紀伊山地の峻峻な山々が連なっている。すなわち当市域は、平地部と山地部、いわゆる国中と山中の結節点にあたるという地理環境にあり、桜井市街地の発達はこの環境要因によるところが大きいと考えられる。現在の市街地付近は、古代以来の交通路が東西・南北方向へと通じており、これらに沿って発達した街村が、現在の桜井市街地の元となっている。

茅原大墓古墳は、この桜井市の北部に位置する大字茅原に所在する。茅原集落は、東側は遠く大和高原へと連なる丘陵部に接し、西側には奈良盆地東南部の平地部が広がっており、まさに奈良盆地東縁というべき地理環境にある。付近の標高は80m前後で、古くから信仰の対象とされてきた三輪山を西側から仰ぎ見る位置にあり、また奈良盆地東縁の傾斜地に立地することから、墳丘上からは盆地の広い範囲を見渡すことができる。古墳の南側には茅原集落が存在するが、これを除く三方には耕作地がひろがり、高く盛り上がった墳丘の姿は遠くからも望むことができる位置環境にある。

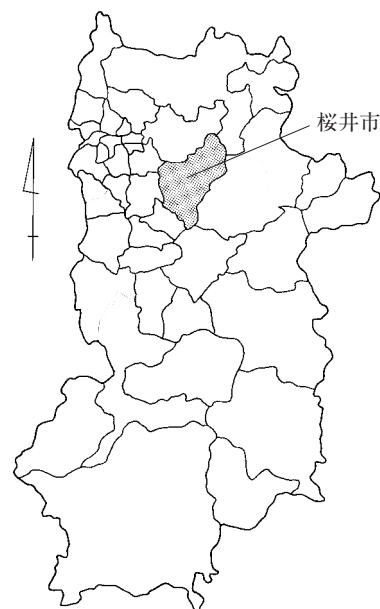


図1 桜井市の位置

2. 歴史的環境

旧石器・縄文時代 桜井市域で旧石器時代に遡る考古資料としては、安倍山丘陵南側の中山遺跡¹⁾（図2-74）と吉備池遺跡²⁾（61）よりナイフ形石器が出土しているほか、谷遺跡（62）では翼状剥片の出土が報告されている³⁾。このほか旧石器時代末～縄文時代草創期の有舌尖頭器が初瀬谷の脇本遺跡⁴⁾と三輪山西麓の桧原遺跡（30）より出土している。

縄文時代早期に属する資料としては、初瀬遺跡出土の押型文土器がある⁵⁾。市域北部の箸中遺跡（17）では縄文前期の土器・石器類の採集が報告され、市域南部の山地部に位置する高家ヒラノ3号墳調査時には縄文中期の遺物が出土している⁶⁾。後期・晩期になると遺跡数がやや増加し、平地部では上之庄遺跡（42）、大福遺跡（50）、芝遺跡（23）、纏向遺跡（16）、三輪松之本遺跡（41）、栗殿遺跡（39）など、平地の縁辺部では河西遺跡（78）、脇本遺跡などで遺物の出土が報告されている⁸⁾。このうち大福遺跡では複数の土器棺墓が確認されているが、全体的に遺物・遺構量はそれほど多いものではない⁹⁾。

弥生時代 弥生時代前期の遺跡は上之庄遺跡¹⁰⁾、大福池遺跡¹¹⁾（51）、芝遺跡¹²⁾など平地部で確認されているが、縄文時代と同様に遺構・遺物はそれほど多くない。このうち芝遺跡では続く中期の遺構が顕著に認められ、複数の溝や方形周溝墓が確認されるとともに、高床建物が描かれた絵画土器が出土している¹³⁾。また橿原市境を跨いで広がる坪井・大福遺跡（47）では、この時期の集落を囲む多重の環濠の存在が確認されている¹⁴⁾。

後期以降には遺跡数の増加が見られ、特に後期後半になると多数の遺跡で遺構・遺物が確認されるようになる。芝遺跡では中期に続いて多くの遺構が知られており、大福遺跡では突線鈕式銅鐸が埋納された状態で検出されているほか、破碎された銅鐸片や青銅器鑄造関連遺物が出土している¹⁵⁾。同様の遺物は脇本遺跡でも確認されており、銅鐸祭祀の終焉を考える上で貴重な資料となっている。このほか当該期の遺跡としては吉備遺跡（55）や横内遺跡（54）、安倍寺遺跡（62）などがあり、丘陵上に立地する安倍山遺跡（66）では3重以上の環濠を巡らした集落の存在も確認されている¹⁷⁾。

これらの集落は概ね弥生時代終末期にかけて衰退し、かわって市域北部の纏向遺跡において大規模な集落が形成されるようになる。この纏向遺跡では弥生時代後期後半以降に遺構数が増加をはじめ、終末期にあたる庄内式期には他の集落には見られないような顕著な特徴を有するにいたる¹⁸⁾。その特徴の一つは全長100m前後の大型墳墓の存在であり、纏向石塚古墳（墳丘墓、11）¹⁹⁾、矢塚古墳（墳丘墓、10）²⁰⁾、勝山古墳（墳丘墓、9）²¹⁾、ホケノ山古墳（墳丘墓、19）²²⁾、東田大塚古墳（13）²³⁾など、定型化した前方後円墳の出現に前後して築造されたと考えられる大型前方後円形墳墓が複数存在している。これらは「纏向型前方後円墳」²⁴⁾と呼ばれ、日本列島における前方後円墳の出現を考える上で重要な資料となっている。

古墳時代 纏向遺跡の集落は古墳時代前期にかけてその範囲を拡大し、3世紀中頃～後半に最盛期を迎える。集落域では関東から九州にかけての地域の外来系土器が多数出土しており、日本列島の広範囲との交流があったことが窺える。また集落の南側には最初の大王墓とされる箸墓古墳（22）²⁵⁾が築造されており、その後古墳時代前期を通じて、奈良盆地東南部に大王墓が築造されることとなる。

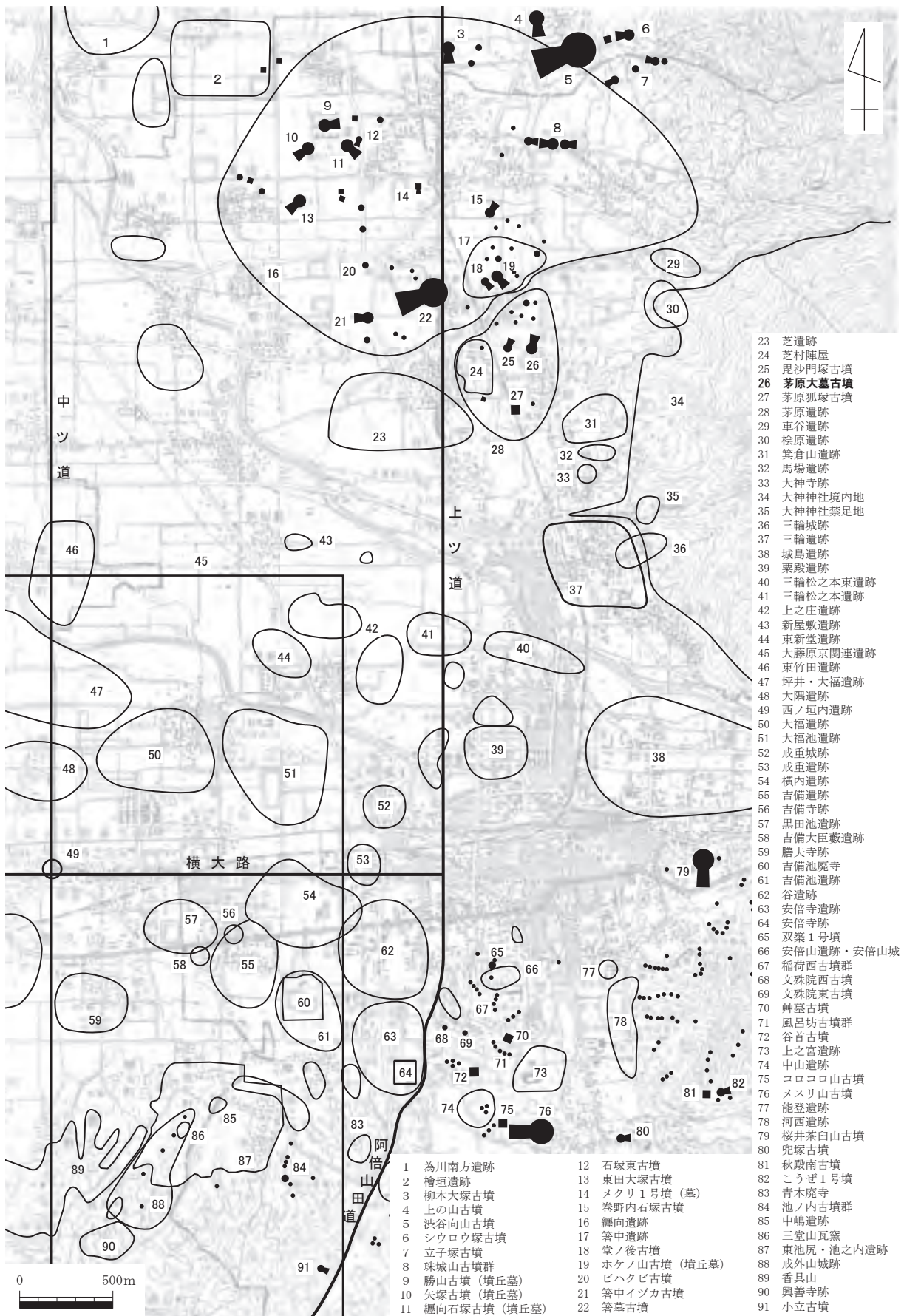


図2 桜井市北西部の遺跡分布図 (S=1/30,000)

こうしたことから纏向遺跡の古墳時代集落は、当時の日本列島における中心的な集落であり、古墳時代前期の政権勢力と密接に関わる集落であったと考えることができる。

このほか古墳時代前期の遺跡としては、城島遺跡（38）や安倍寺遺跡（63）、上之庄遺跡（42）などが知られる。城島遺跡は奈良盆地から宇陀を経て伊賀・東海地域へと続くルートの入口にあたる立地環境にあり、多くの東海系の土器が出土している。また古墳時代前期前半の大王墓である桜井茶臼山古墳（79）²⁶⁾と近接し、多量の木製耕起具が出土していることから、この古墳の築造に関わる集落である可能性も指摘されている。安倍寺遺跡は古墳時代前期中頃の大王墓とされるメスリ山古墳（76）²⁸⁾の北西側に位置し、2箇所石釧が出土するなど、当該期の首長居館の存在が推定される²⁹⁾。また上之庄遺跡（42）の玉作り関連遺構は、滑石製玉類の製作遺跡としては最古級のものとして注目される³⁰⁾。

なおこの時期の古墳としては、上記の3基の大王墓のほか、中小規模の古墳がわずかに知られる程度である。赤尾熊ヶ谷1号墳・2号墳は、鳥見山北側の尾根上に立地する全長15m前後の小規模墳であり、纏向遺跡の巻野内坂田地区では冠帽形埴輪や鶏形埴輪が出土しており、中小規模の古墳の存在が推定される³²⁾。

古墳時代中期前半になると、市域北部において箸中イヅカ古墳（21）³³⁾や茅原大墓古墳（26）など、全長80m以上の前方後円墳が築造されるものの、大王墓級の古墳は築造されなくなる。市域南東部においても池ノ内古墳群（84）³⁴⁾や小立古墳（91）³⁵⁾、赤尾熊ヶ谷3号墳など中小規模の古墳がわずかに存在する程度である。中期末以降になると次第に古墳の数は増大し、纏向遺跡やその周辺では帆立貝式古墳である石塚東古墳（12）³⁷⁾や、前方後円墳である堂ノ後古墳（18）³⁸⁾、毘沙門塚古墳（25）³⁹⁾などが築造される。市域南東部では阿蘇溶結凝灰岩製の家形石棺を持つ兜塚古墳（80）⁴⁰⁾が見られるほか、小規模墳が丘陵上に群集して築造されるようになる。これらの中には稲荷西古墳群（67）⁴¹⁾や風呂坊古墳群（71）⁴²⁾、赤尾崩谷古墳群など⁴³⁾、渡来系の要素を持つ古墳が複数存在している。

古墳以外の遺跡では、古墳時代中・後期には山ノ神遺跡など三輪山西麓において磐座遺構や土製品・子持勾玉などの祭祀遺構・遺物が見られるようになる。子持勾玉は大神神社禁足地（35）⁴⁴⁾のほか芝遺跡⁴⁴⁾や茅原遺跡⁴⁵⁾（28）、三輪松之本遺跡（41）⁴⁶⁾、赤尾崩谷古墳群などでも出土しており、こうした祭祀は三輪山西麓のみならず、その南側の平地部や、さらに南側の丘陵部においても行われていたと考えられる。また「磯城」・「磐余」と呼ばれたこの地域には、記紀に見られる宮跡の伝承地が複数存在する。これら伝承地の多くは考古学的な検証を経ていないが、雄略大王の「泊瀬朝倉宮」が推定される脇本遺跡では5世紀後半頃の掘立柱建物群が確認されており、その蓋然性が指摘される⁴⁷⁾。このほか谷遺跡・安倍寺遺跡では、包含層中から古墳時代中期～後期の土器とともに、玉作りや鍛冶関連遺物が多数出土しており、当該期の工房域の存在を推定することができる⁴⁸⁾。付近は「磐余」の宮跡推定地に近接しており、当時の政権勢力と関係を持つ工房であった可能性も考えられる。また近年纏向遺跡では、貼石を施した5世紀末頃の区画溝が確認されており、当該期の首長居館を囲むものと推定される⁴⁹⁾。

飛鳥時代～藤原京期 桜井市域では古墳時代後期後半の珠城山3号墳（8）⁵⁰⁾やこうぜ1号墳（82）⁵¹⁾を最後として前方後円墳が姿を消すが、かわって巨石を用いた横穴式石室を有する大型方墳・円墳が

築造されるようになる。安倍山丘陵の谷首古墳⁵²⁾、艸墓古墳⁵³⁾、文殊院西古墳⁵⁴⁾、栗原谷の赤坂天王山1号墳⁵⁵⁾や越塚古墳⁵⁶⁾、ムネサカ1号墳⁵⁷⁾など著名な横穴式石室墳が数多く存在し、これらは大王家や有力氏族との関係性が考えられている。このうち八角形の墳丘形態を持つ段ノ塚古墳⁵⁸⁾の出現を見るが、これを最後に桜井市域での大型墳の築造は終了することとなる。このほか終末期の古墳としては、榛原石を用いた磚槨墳がある。鳥見山南麓の舞谷古墳群⁵⁹⁾、栗原川上流の花山西塚古墳・東塚古墳⁶⁰⁾などがあり、いずれも桜井市域南東部の山地部に位置している。この種の磚槨墳は東隣の宇陀地域を含めた範囲に分布しており、この地域における終末期古墳を特徴付けている。

古墳以外で特筆される遺跡としては、安倍山丘陵南側の上之宮遺跡⁶¹⁾・中山遺跡⁶²⁾、脇本遺跡が挙げられる。前者には園池遺構や大型掘立柱建物などの特殊な遺構が存在し、厩戸皇子の「上宮」あるいは阿倍氏の居館跡である可能性が考えられている。後者では7世紀後半頃の掘立柱建物や柵が確認されており、大来皇女が潔斎をおこなった「泊瀬斎宮」の一部である可能性が指摘されている。

このほか安倍寺跡⁶³⁾や吉備池廃寺跡⁶⁴⁾、山田寺跡など、天皇家や有力氏族と密接な関係を持つ古代寺院の存在が顕著である。吉備池廃寺跡は巨大な金堂・塔の基壇の存在が確認され、最古の勅願寺である「百済大寺」に比定されている。蘇我倉山田石川麻呂により造営が始められたとされる山田寺跡では、東面回廊の一部が倒壊した状態で出土しており、法隆寺以前の寺院建築の様相を知ることができる。

また市域は古代の官道である横大路や上ツ道、中ツ道、阿倍山田道などが通過・交差する交通上の要地であり、近年の調査ではそれらの遺構も確認されつつある⁶⁵⁾。さらに上之庄遺跡では藤原京の東十坊大路が検出され、市域西部一帯が藤原京城⁶⁶⁾（45）に含まれることが明らかとなっている。

3. 茅原大墓古墳の周辺環境

茅原大墓古墳は三輪山の西麓に位置し、初瀬川へと流れ込む纏向川の左岸に立地する。この纏向川は茅原大墓古墳のすぐ北側において、三輪山北側の車谷から奈良盆地へと流れ出ており、付近に扇状地を形成している。この纏向川扇状地の緩斜面地は、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけて纏向遺跡の大規模集落が営まれたところであり、そこには大小様々な古墳が数多く存在している。特に大字箸中から大字茅原にかけての地域では、現在も水田の中に残る墳丘の高まりが散見され、古墳が集中する地域であることが明瞭である。茅原大墓古墳は、この市内でも有数の古墳集中地帯の一画に位置している。

この地域の古墳の状況を見ると、まず纏向川の北側において、日本列島で最初の大王墓とされる全長約280mの箸墓古墳（図3-3）や、「石囲い木柵」という特殊な埋葬施設を持ち、画文帯神獸鏡や銅鏃が副葬された全長約80mのホケノ山古墳（墳丘墓、15）など、3世紀代に遡る古墳出現期の大型墳墓が築造される。

続く古墳時代前期には古墳の築造が希薄になるが、中期初頭には造墓が活発化し、全長80m以上の

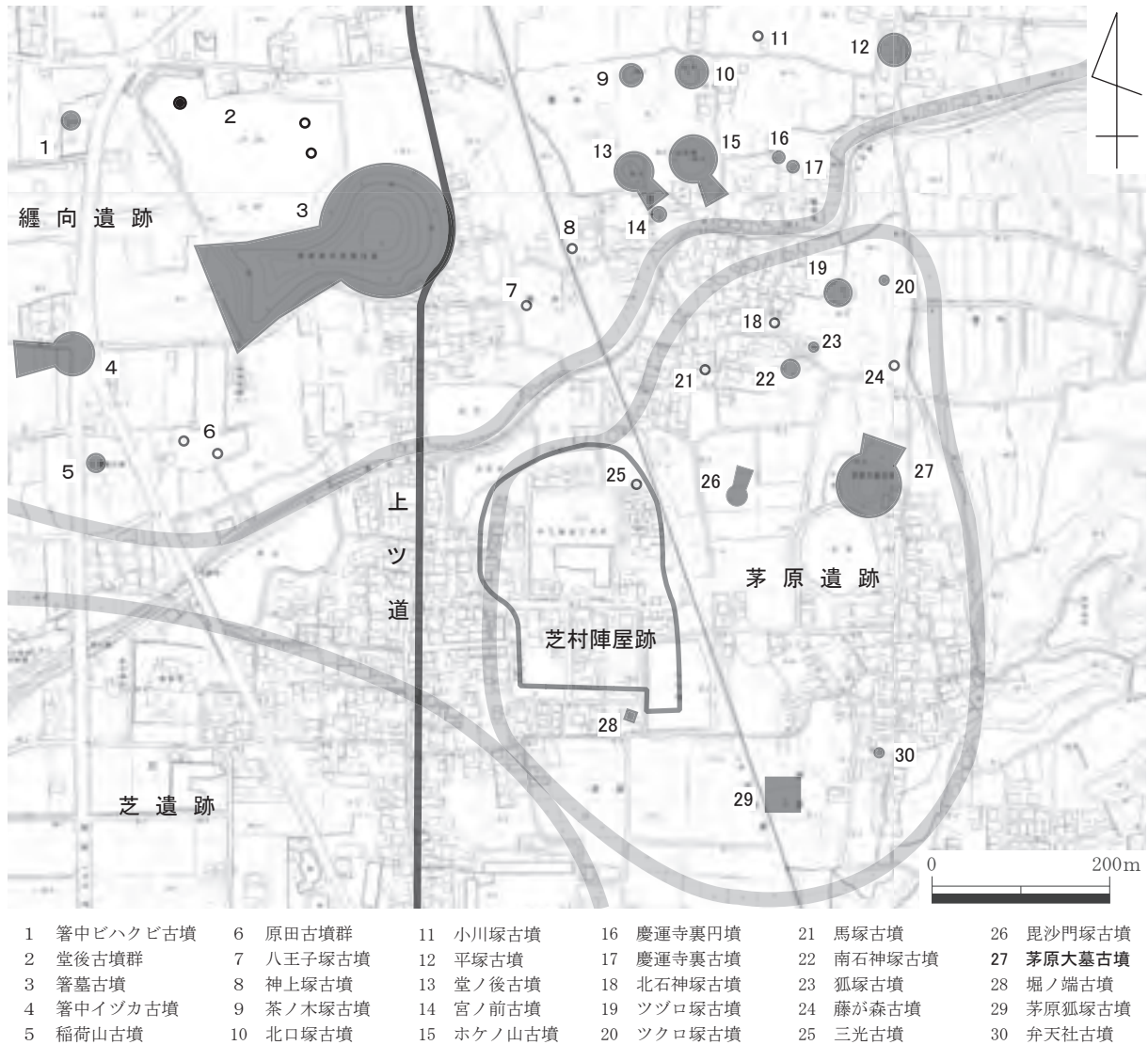


図3 茅原大墓古墳周辺の遺跡分布 (S=1/8,000)

箸中イヅカ古墳（4）、径20m程度の円墳と考えられる箸中ビハクビ古墳（1）などが築かれるほか、纏向川の南側においても全長約86mの茅原大墓古墳（27）が築造される。その後も中期後半に堂ノ後古墳（13）、後期前葉に平塚古墳（12）、毘沙門塚古墳（26）といった中規模古墳が築かれており、慶雲寺境内の阿蘇溶結凝灰岩製の石棺仏は、この時期の古墳の石棺を転用したものと推定される。

後期末葉には一辺約40mの方墳である茅原狐塚古墳や、ホケノ山古墳の墳丘を再利用した横穴式石室墳が築かれている。このほか馬塚古墳（21）や弁天社古墳（30）、慶雲寺裏古墳（17）など、横穴式石室を主体とする古墳が複数存在しており、時期不明の小規模墳のなかにはこの時期のものが多く含まれると推定される。このように茅原大墓古墳の周辺では、ほぼ古墳時代を通じて造墓が行われており、この点において桜井市内でも稀有な地域であるといえる。

奈良盆地東縁の丘陵に接する位置にあたるこの付近には現在、国道169号線やJR桜井線などが走り、桜井から天理市を経て奈良市へと至る南北の交通網が発達している。近世以前も同様であり、京

都・奈良方面から初瀬・伊勢への参詣道となる上街道が南北に走り、特に織田氏1万石の藩邸である芝村陣屋に近い街道筋には、町並みの発達が見られた。なおこの上街道は古代の上ツ道を踏襲したものであり、奈良盆地の南北をつなぐ結節点としての位置付けは、古代にまで遡るものといえる。

4. 茅原大墓古墳の研究史

茅原大墓古墳に関する考古学的記録の古いものとしては、明治20年代に当時奈良県属であった野洲龍潜によって製作された『古墳墓見取図』及び『大和國古墳墓取調書』を挙げることができる。⁷²⁾前者には古墳の姿が絵図として描かれ(図4)、後者には以下のような解説文が記されている。

「式上郡織田村大字茅原ニ在リ字大墓ト云フ
其形一圓丘ニシテ西南濠陞ヲ繞ラシ東北濠址ヲ存ス 頂上發掘ノ痕ヲ存スルモ近來ノ發掘ニ非ニ如シ 村人ハ此處ヨリ曾テ刀劍曲玉ノ類ヲ出セント傳フ 昔時ハ王ノ墓ト唱シト云フ 考証ノ材料ナシト雖モ尋常ノ塚ニ無之ト認ム」

これによると、墳形については円墳として捉えているようであり、短く低平な前方部は認識されていなかったようである。また、盗掘により刀剣類・玉類が出土しているという伝承がある点は注目されるが、ここにあるような盗掘の痕跡は現状では見られず、また出土物の所在についても不明であり、その真偽は定かでない。

後円部の北側に接続する低平な高まりを墳丘の一部と理解し、茅原大墓古墳をはじめ「帆立貝式古墳」として評価したのは松本俊吉である(図5左)。松本はその論考⁷³⁾の中で円筒埴輪や線刻を持つ埴輪が採集されたことを記しており、また被葬者については、「垂仁帝の皇后狭穗姫の陵墓傳説地であつて、茅原は狭穗一族の根據地であつて兄の狭穗彦が亂を起こした時に據つた地である。」とし、狭穗姫の墓である可能性を考えている。その後『大三輪町史』において墳丘測量図(図5右)が掲載され、茅原大墓古墳が「帆立貝式古墳」とであるという見解が定着する。時期についても、採集される埴輪から古墳時代中期と考えられるに至っている。⁷⁴⁾

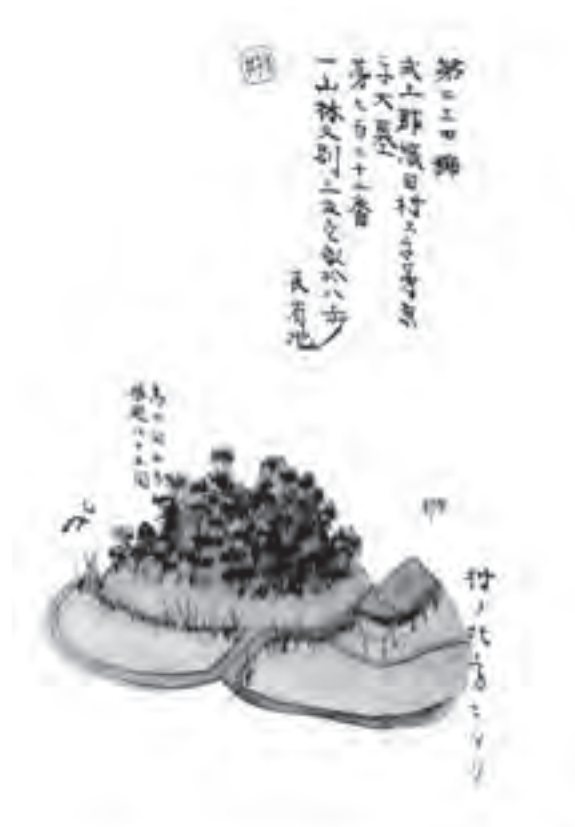


図4 茅原大墓古墳墳丘見取図
〔註72) 文献より〕

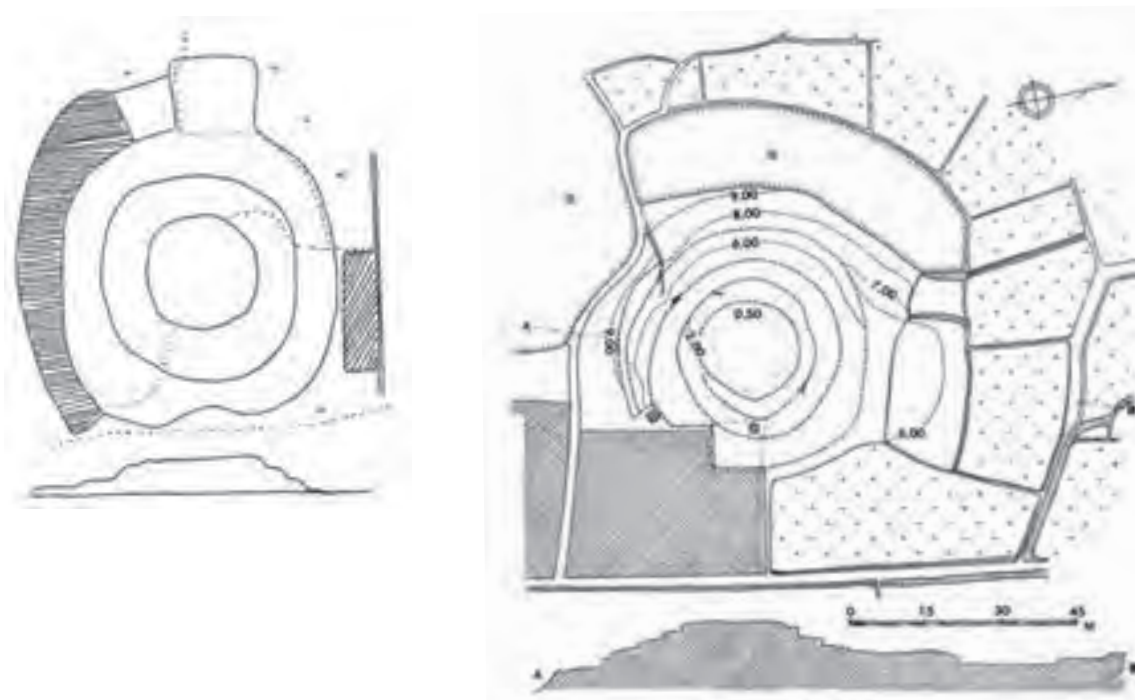


図5 茅原大墓古墳の墳丘図 [左：註73) 文献より、右：註70) 文献より]

【註記】

- 1) 清水眞一（編） 1989『阿部丘陵遺跡群』 桜井市教育委員会
- 2) 小澤毅（編） 2003『吉備池廃寺発掘調査報告書 - 百済大寺の調査 -』 奈良文化財研究所
- 3) 清水眞一 1994『谷遺跡第5次調査』（財）桜井市文化財協会
清水眞一 1999『谷遺跡第12次調査』『桜井市内埋蔵文化財1998年度発掘調査報告書3』（財）桜井市文化財協会
- 4) 前園実知雄 関川尚功 1978『歴史的環境』『桜井市外鎌山北麓古墳群』 奈良県教育委員会
- 5) 清水眞一 1997『初瀬遺跡第3次発掘調査報告』『桜井市内埋蔵文化財1996年度発掘調査報告書1』（財）桜井市文化財協会
- 6) 川村和正 2000『箸中遺跡出土の縄文資料について』『大和の縄文時代 - 奈良盆地の狩人たちの足跡 -』 桜井市立埋蔵文化財センター
- 7) 桜井市立埋蔵文化財センター 2000『大和の縄文時代 - 奈良盆地の狩人たちの足跡 -』
以下縄文時代の遺跡に関することは、特に表記しない限りはこの文献を参考としている。
- 8) 網干善教ほか 1979『考古学編』『桜井市史 上巻』 桜井市役所
- 9) 亀田博（編） 1978『大福遺跡』 奈良県教育委員会
- 10) 福辻淳 2004『上之庄遺跡第9次発掘調査報告』『桜井市内埋蔵文化財2003年度発掘調査報告書2』（財）桜井市文化財協会
- 11) 清水眞一 2004『桜井市内埋蔵文化財2003年度発掘調査報告書1』（財）桜井市文化財協会
- 12) 岩崎大介 1998『芝遺跡第27次発掘調査報告』『桜井市内埋蔵文化財1997年度発掘調査報告書1』（財）桜井市文化財協会
- 13) 松本洋明 1986『芝遺跡寺ノ前地区発掘調査概報』 桜井市教育委員会
清水眞一 1996『芝遺跡第20次発掘調査報告』『桜井市 平成7年度国庫補助による発掘調査報告書』 桜井市教育委員会
- 14) 武田雄志（編） 2014『大福遺跡を歩くⅡ』 桜井市立埋蔵文化財センター
- 15) 石野博信 萩原儀征 1987『大福遺跡大福小学校地区発掘調査概報』 桜井市教育委員会
丹羽恵二 2009『大福遺跡の青銅器製造関連遺物』『銅鐸』 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館2009年秋季特別展図録
- 16) 光石鳴巳（編） 2011『脇本遺跡Ⅰ』 奈良県立橿原考古学研究所
- 17) 松宮昌樹 2008『桜井公園遺跡群第6次調査概要報告』『奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会年報 - 平成19年度』 奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会
- 18) 石野博信（編） 1976『纏向』 桜井市教育委員会
以下纏向遺跡に関することは、特に表記しない限りはこの文献を参考としている。
- 19) 橋本輝彦 寺沢薫 丹羽恵二 木場佳子（編） 2012『纏向石塚古墳』 桜井市教育委員会

- 20) 松宮昌樹 2008「纏向遺跡第148次（矢塚古墳第2次）発掘調査報告」『桜井市 平成18年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
松宮昌樹 2009「纏向遺跡第154次（矢塚古墳第3次）発掘調査報告」『桜井市 平成19年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
松宮昌樹 2010「纏向遺跡第160次（矢塚古墳第4次）発掘調査報告」『桜井市 平成20年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 21) 小池香津江 1998「纏向遺跡第102次発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報 1997年度』奈良県立橿原考古学研究所
大西貴雄 1999「勝山古墳第2次発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報 1998年度』奈良県立橿原考古学研究所
橋本裕行 南部裕樹 2001「勝山古墳第4次発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報 2000年度』奈良県立橿原考古学研究所
豊岡卓之（編）2011「勝山古墳第5・6次調査報告」『東アジアにおける初期都宮および王墓の考古学的研究』奈良県立橿原考古学研究所
- 22) 岡林孝作 水野敏典（編）2008『ホケノ山古墳の研究』奈良県立橿原考古学研究所
- 23) 橋本輝彦（編）『東田大塚古墳』財団法人桜井市文化財協会
福辻淳 2008「纏向遺跡第147次（東田大塚古墳第4次）発掘調査報告」『桜井市 平成18年度国庫補助による発掘調査報告書』
福辻淳 2009「纏向遺跡第153次（東田大塚古墳第5次）発掘調査報告」『桜井市 平成19年度国庫補助による発掘調査報告書』
福辻淳 2010「纏向遺跡第159次（東田大塚古墳第6次）発掘調査報告」『桜井市 平成20年度国庫補助による発掘調査報告書』
- 24) 寺沢薫 1988「纏向型前方後円墳の築造」『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズⅣ
- 25) 寺沢薫（編）2002『箸墓古墳周辺の調査』奈良県立橿原考古学研究所
福辻淳 2014『H A S H I H A K A ー始まりの前方後円墳ー』桜井市立埋蔵文化財センター平成25年度特別展図録
- 26) 中村春寿 上田宏範 1961『桜井茶臼山古墳 附櫛山古墳』奈良県教育委員会
岸本直文 澤田秀実 2005『桜井茶臼山古墳の研究』大阪市立大学日本史研究室
東影悠（編）2011「桜井茶臼山古墳第7・8次調査概要報告」『東アジアにおける初期都宮および王墓の考古学的研究』奈良県立橿原考古学研究所
- 27) 清水眞一 1991『城島遺跡外山下田地区発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 28) 伊達宗泰（編）1977『メスリ山古墳』奈良県立橿原考古学研究所
岸本直文 所梓（編）2008『メスリ山古墳の研究』大阪市立大学日本史研究室
- 29) 福辻淳 2010「桜井市内の集落出土の腕輪形石製品」『古代学研究』187 古代学研究会
- 30) 橋本輝彦 1997「上之庄遺跡第4次発掘調査の概要」『平成8年度奈良県内市町村埋蔵文化財発掘調査報告会資料』奈良県内市町村埋蔵文化財技術担当者連絡協議会
- 31) 橋本輝彦（編）2008『赤尾熊ヶ谷古墳群』（財）桜井市文化財協会
- 32) 橋本輝彦（編）2007『奈良県桜井市 纏向遺跡発掘調査報告書－巻野内坂田地区における調査報告－』桜井市教育委員会
- 33) 米川仁一 2001「纏向遺跡第119次・121次調査概報」『奈良県遺跡調査概報 2000年度』奈良県立橿原考古学研究所
- 34) 泉森皎（編）1973『磐余・池ノ内古墳群』奈良県教育委員会
- 35) 村上薫史 2002「小立古墳調査概要」『磐余遺跡群発掘調査概報Ⅰ』（財）桜井市文化財協会
- 36) 註31) に同じ
- 37) 丹羽恵二 橋爪朝子 2006「纏向遺跡第144次調査（纏向石塚古墳第9次調査）概要報告」『桜井市 平成17年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 38) 丹羽恵二 金松誠 2011「纏向遺跡第164次（堂ノ後古墳第1次）発掘調査報告」『桜井市 平成21年度国庫補助による発掘調査報告書』桜井市教育委員会
- 39) 清水眞一 1994「茅原遺跡第4次調査」『桜井市内埋蔵文化財1993年度発掘調査報告書』（財）桜井市文化財協会
- 40) 清水眞一 2001「兜塚古墳」『大和前方後円墳集成』学生社
- 41) 島田暁 1954「稲荷西古墳」『桜井町史』桜井町役場
網干善教 伊達宗泰 小島俊次 1959「桜井市児童公園の古墳」『奈良県史跡名勝天然記念物調査抄報』第11輯 奈良県教育委員会
福辻淳 2007「稲荷西2号墳出土遺物について」『桜井公園遺跡群』（財）桜井市文化財協会
- 42) 伊達宗泰 1960「桜井市風呂坊の古墳」『奈良県文化財調査報告（埋蔵文化財編）』第3集 奈良県教育委員会

- 福辻淳（編） 2012『風呂坊古墳群－第4次発掘調査報告書－』 財団法人桜井市文化財協会
- 43) 橋本輝彦 木場佳子 2004「赤尾崩谷古墳群」『大和を掘る』21 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
- 44) 清水眞一 1987『芝遺跡 大三輪中学校改築にともなう発掘調査報告書』 桜井市教育委員会
- 45) 萩原儀征 1990『茅原遺跡丸田地区発掘調査概要』 桜井市教育委員会
- 46) 中野咲（編） 2014『松之本遺跡 第4次調査』 奈良県立橿原考古学研究所
- 47) 前園実知雄 2004『奈良・大和の古代遺跡を掘る』 学生社
- 48) 清水眞一 1994『谷遺跡第5次調査』（財）桜井市文化財協会
 清水眞一 1994「谷遺跡第6次の発掘調査」『桜井市埋蔵文化財 1993年度発掘調査報告書』（財）桜井市文化財協会
 松宮昌樹 2003「谷遺跡第17次発掘調査報告」『桜井市 平成14年度国庫補助による発掘調査報告書』 桜井市教育委員会
 丹羽恵二 2005「安倍寺遺跡第14次発掘調査報告」『桜井市 平成16年度国庫補助による発掘調査報告書』 桜井市教育委員会
 荻谷史穂 2011「安倍寺遺跡第17次発掘調査報告」『桜井市内遺跡発掘調査報告書－2010年度－』（財）桜井市文化財協会
- 49) 橋本輝彦 2013『纏向遺跡発掘調査概要報告書－トリイノ前地区における発掘調査－』 桜井市教育委員会
- 50) 伊達宗泰 1960「大三輪町穴師珠城山2号・3号墳」『奈良県文化財報告（埋蔵文化財編）』第3集 奈良県教育委員会
 丹羽恵二 2007『国史跡 珠城山古墳群 －第4・5次調査及び史跡整備報告書－』 桜井市教育委員会
- 51) 福辻淳 2010「こうぜ古墳群第1次発掘調査報告」『桜井市内埋蔵文化財2006年度発掘調査報告書1』（財）桜井市文化財協会
- 52) 清水眞一 1989「谷首古墳周辺」『阿部丘陵遺跡群』 桜井市教育委員会
 大阪市立大学日本史研究室 2013『谷首古墳の石室』 住考研リーフレット
- 53) 泉森皎 1982「艸墓古墳」『飛鳥・磐余地域の後、終末期古墳と寺院跡』 奈良県立橿原考古学研究所
- 54) 岡崎晋明 1982「文殊院西古墳」『飛鳥・磐余地域の後、終末期古墳と寺院跡』 奈良県立橿原考古学研究所
- 55) 梅原末治 1938「大和赤阪天王山古墳」『日本古文化研究所報告』9
- 56) 伊達宗泰 1960「越塚古墳」『奈良県文化財調査報告（埋蔵文化財編）』第3集 奈良県教育委員会
- 57) 小島俊次 1958『古墳 －桜井市古墳総覧－』 桜井市文化叢書1
 西光慎二 2007「王陵の地域史研究 ～飛鳥地域の終末期古墳測量調査報告Ⅱ～」『明日香村文化財調査研究紀要』第6号
 明日香村教育委員会
- 58) 白石太一郎 1982「畿内における古墳の終末」『国立歴史民俗博物館研究報告』第1集 国立歴史民俗博物館
 笠野毅 1995「舒明天皇押坂内陵の墳丘内構造」『書陵部紀要』第46号 宮内庁書陵部
- 59) 磚塚墳研究会（編） 1994『舞谷古墳群の研究』（財）由良大和古代文化研究協会
- 60) 泉森皎 1982「花山西塚古墳」「花山東塚古墳」『飛鳥・磐余地域の後、終末期古墳と寺院跡』 奈良県立橿原考古学研究所
- 61) 清水眞一（編） 1989『阿部丘陵遺跡群』 桜井市教育委員会
- 62) 井上主税 2014『脇本遺跡Ⅱ』 奈良県立橿原考古学研究所
- 63) 橿原考古学研究所（編） 1970『安倍寺跡環境整備事業報告書』 桜井市
 清水眞一 1990「国史跡安倍寺・宮西地区発掘調査概要」『桜井市内埋蔵文化財1989年度発掘調査報告書1』（財）桜井市文化財協会
 丸山香代 丹羽恵二 2012『阿倍氏－桜井の古代氏族－』平成24年度桜井市立埋蔵文化財センター特別展図録
- 64) 註2)に同じ
- 65) 毛利光俊彦（編） 2002『山田寺発掘調査報告』 奈良文化財研究所
- 66) 福辻淳 2005「纏向遺跡第142次発掘調査報告」『桜井市平成16年度国庫補助による発掘調査報告書』 桜井市教育委員会
 清水哲 2012「安倍寺遺跡第12次発掘調査報告」『桜井市内埋蔵文化財2002年度発掘調査報告書6』（財）桜井市文化財協会
- 67) 註30) 文献に同じ
- 68) 福辻淳 2004「纏向遺跡第135次発掘調査報告（平塚古墳隣接地）」『桜井市 平成15年度国庫補助による発掘調査報告書』 桜井市教育委員会
- 69) 網干善教 1954「磯城郡大三輪町箸中馬塚古墳」『奈良県史蹟名勝天然記念物調査抄報』第9輯
- 70) 網干善教 1959「大三輪町の古墳墓」『大三輪町史』 大三輪町役場
- 71) 増田一裕 住谷久江 1979「奈良県桜井市箸中遺跡と纏向古墳群について」『古代文化』30－5
- 72) 秋山日出雄（編） 1985『大和国古墳墓取調書』 財団法人由良大和古代文化研究協会
- 73) 松本俊吉 1936「大和織田村茅原大墓山古墳に就いて」『大和志』第3巻第9号 大和国史会
- 74) 註70) 文献に同じ

第2章 調査の経緯と経過

1. 調査に至る経緯

茅原大墓古墳は、帆立貝形の墳丘が良好に保存されている事例として古くから知られ、昭和57年12月18日付けで国史跡に指定されている（指定面積7,565.86㎡ 桜井市大字茅原616-1、616-2、617、618-1、618-2、706、709、718、719、720、721、722-1、722-2、722-3、722-4、722-5、723-1、723-2、723-3）。桜井市では史跡指定以後、将来的に史跡整備を行うことを目指し、昭和58年度から60年度にかけて用地買収を行い、昭和60年度までに3,553.71㎡の公有地化を完了することができた。

しかしその後諸事情により、公有地化事業が中断することとなり、史跡整備に向けた事業全体も実施できない時期が長く続くこととなった。

桜井市としてあらためて史跡整備の必要性を認識するに至ったのは平成20年度のことであり、これ以降6年度にわたり、古墳の形態の解明と、保存状況の把握を目的とした調査が継続して実施されることとなった（第2次～第6次調査、地中物理探査）。

なお公有地化事業については平成21年度に再開することとなり、平成22年度までに個人宅地部分（桜井市大字茅原616-1、616-2、617、618-1、722-2、722-5）と墳丘西側のため池「小池」（同706）を除く5,277.72㎡の公有地化を完了した（図6）。

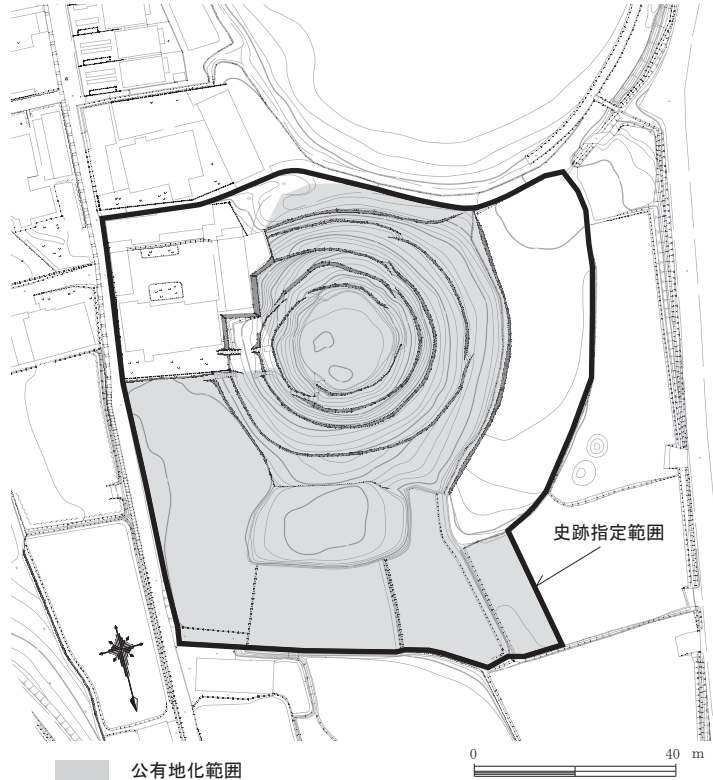


図6 史跡指定範囲と公有地化範囲（S=1/1,500）

2. 調査の経過

（1）調査の種類

茅原大墓古墳では、これまでに計6次にわたる発掘調査（表1）のほか、測量調査や地中物理探査が行われている。発掘調査は平成7年度の第1次調査のみが緊急調査であり、平成20年度～24年度の第2次～第6次調査は史跡整備事業の一環として、古墳の現状・形態について確認するために実施された調査である。平成20年度の測量調査、平成25年度の地中物理探査についても史跡整備に先立つ調

表1 茅原大墓古墳発掘調査一覧

調査回数	調査期間	トレンチ名	調査面積	調査位置	検出遺構など
第1次調査	1996. 2. 19～ 1996. 3. 6	第1トレンチ (1-1)	7.5㎡	後円部南西側	後円部南西端、葺石
		第2トレンチ (1-2)	15.5㎡	後円部南西側	周濠外側の立ち上がり
第2次調査	2008. 9. 5～ 2008. 10. 22	(2)	44㎡	前方部東側	前方部東側面の墳端、葺石
第3次調査	2009. 10. 23～ 2010. 2. 5	第1トレンチ (3-1)	52㎡	前方部西側	
		第2トレンチ (3-2)	42㎡	後円部西斜面	後円部頂墳輪列
		第3トレンチ (3-3)	72㎡	後円部北斜面～前方部上面	後円部頂墳輪列、後円部 2段目墳輪列、後円部2 段目斜面、葺石
		第4トレンチ (3-4)	30㎡	後円部南斜面	後円部2段目墳輪列
		第5トレンチ (3-5)	7㎡	後円部南側	墳丘盛土
第4次調査	2010. 11. 16～ 2011. 3. 24	第1トレンチ (4-1)	35㎡	後円部東側	後円部東端、葺石
		第2トレンチ (4-2)	37㎡	東側くびれ部	東側くびれ部の墳端、葺石、盾持人墳輪
		第3・4トレンチ (4-3・4)	80㎡	前方部北東側（拡張により 第3トレンチと第4トレン チが結合）	前方部東側面、渡土堤、 葺石
		第5トレンチ (4-5)	38㎡	前方部上面東側	前方部2段目斜面、葺石、 墳輪棺
		第6トレンチ (4-6)	48㎡	前方部北側	前方部前面の墳端、葺石、 周濠外側の立ち上がり
第5次調査	2011. 11. 9～ 2012. 3. 27	第1トレンチ (5-1)	13.5㎡	東側くびれ部	2段目東側くびれ部、葺石
		第2トレンチ (5-2)	27㎡	西側くびれ部	2段目西側くびれ部、葺石、 後円部1段目墳輪列、 墳輪棺
		第3トレンチ (5-3)	62㎡	前方部北東側	前方部北東隅の墳端、渡土堤、 葺石
第6次調査	2012. 12. 7～ 2013. 2. 23	第1トレンチ (6-1)	76.5㎡	前方部北西側	墳丘、周濠、渡土堤状遺構
		第2トレンチ (6-2)	22㎡	前方部北西側	周濠

査であり、今後これらの成果に基づき、整備の方法を検討していくこととなる。

(2) ため池改修工事に先立つ調査

第1次調査 墳丘西側のため池である「小池」の護岸改修工事に先立って、平成8年2月19日～3月6日に実施された。この小池は、その形態から茅原大墓古墳の周濠を踏襲したものであると推定されており、調査は後円部南西側にあたる小池の南端部分において、2箇所にトレンチを設定して実

施された（図7）。

小池の東岸部分に設定した第1トレンチ（7.5㎡）では、発掘調査によりはじめて茅原大墓古墳の墳丘盛土が確認されたほか、その南西裾にあたる位置で拳大～人頭大の石が集積した状態で検出され、葺石の存在についてもはじめて確認することができた。また第1トレンチの南西側延長部に設定した第2トレンチ（15.5㎡）では、周濠の外側斜面の裾にあたると思われる地山の立ち上がりが検出されている。

（3）史跡整備に先立つ調査

平成20年度に茅原大墓古墳の史跡整備事業が再開されることとなり、国・県の補助を受けて、同年度から平成24年度にかけて5次にわたる発掘調査を実施している（第2次～第6次調査）。これらの調査は、墳丘や周濠の形態および遺構の保存状況を確認することを目的としたものであり、今後の整備方針を検討する上で参考としていきたいと考える。

第2次調査 前方部東側面の墳丘端の位置の確認と、その外側に広がる周濠の確認を目的として、平成20年9月5日～10月22日に発掘調査を実施した。トレンチは現況で残存する前方部の高まりの裾付近を西端とし、東端は史跡指定地の東に隣接する道路際として東西方向に長い形態で設定している（図8、44㎡）。

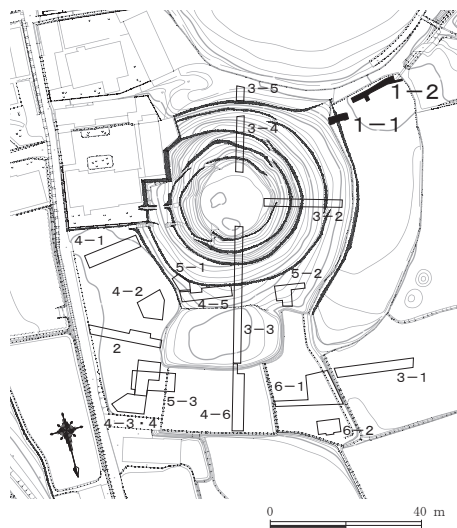


図7 第1次調査トレンチ位置（S=1/2,000）

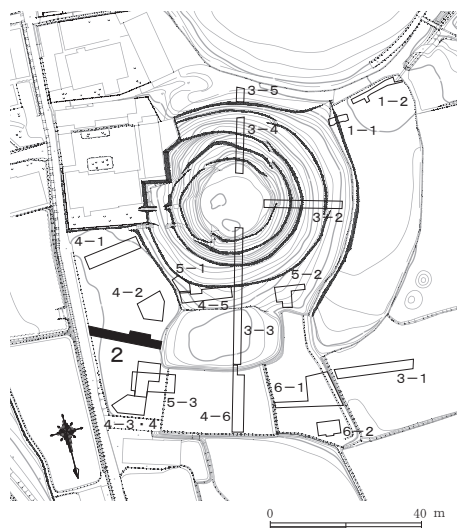


図8 第2次調査トレンチ位置（S=1/2,000）



写真1 第2次調査の様子

調査の結果、トレンチの西寄り部分で前方部の存在を確認することができた。茅原大墓古墳では墳丘の現況から前方部の存在が容易に想定される状況にあったが、発掘調査によりその存在を確認したのはこの第2次調査がはじめてのことである。またその東端部分では、前方部東側面の1段目斜面の葺石が検出されている。原位置を保った状態の葺石が検出されたのも、この調査がはじめての機会となった。墳丘端は現況の高まりの裾より約3 m東側で検出されており、後世に墳丘の輪郭部分が削り込まれていることがわかる。

また前方部の東側では周濠堆積が確認されているが、トレンチの東端に至るまで周濠外側の立ち上がりは検出されなかった。墳丘東側の周濠は、史跡指定地東側の道路下にまで広がるものであると考えられる。

測量調査 平成20年度には上記の第2次調査に加え、茅原大墓古墳の現況地形測量図の作成を行っている。墳丘部分とその周辺部分を含めた約200m四方の範囲を対象とし、航空写真測量と実地での補測により、等高線間隔25cmの100分の1縮尺図を作成している（図13、付図1）。

第3次調査 前方部西側の周濠の広がり確認と、墳丘の構造の解明を目的として、平成21年10月23日～平成22年2月5日に実施された。前方部西側にあたる小池の北側において1箇所（第1トレンチ）、高まりとして墳丘が残存する部分に3箇所（第2～第4トレンチ）、墳丘が削り込まれたと思われる後円部南側部分に1箇所（第5トレンチ）の計5箇所にトレンチを設定し、計203㎡の発掘調査を行っている（図9）。

第1トレンチ（52㎡）では、周濠の名残と思われる小池のすぐ北側に位置することから周濠の検出が期待されたが、後世の耕作などによる削平のため、古墳に関連する遺構を確認することはできなかった。後円部西側斜面の第2トレンチ（42㎡）では、その東端部分において、墳頂平坦面の外縁を巡る埴輪列が確認された。

第3～第5トレンチは、いずれも墳丘主軸想定ライン上に設定された。後円部北斜面から前方部上面に設定された第3トレンチ（72㎡）では、墳頂平坦面の外縁を巡る埴輪列が南端部分で確認されたほか、後円部の2段目平坦面と、その上面を巡る埴輪列が検出された。また前方部の2段目にあたる前方部上面の平坦面と、後円部2段目平坦面の間では、葺石が施された斜面部の存在が確認されている。

後円部南側の第4トレンチ（30㎡）では、墳頂平坦面の埴輪列は残存していなかったが、後円部2段目平坦面を巡る埴輪列が確認されている。第5トレンチ（7㎡）は第4トレンチの南側、史跡指定範囲の南端部に設定された。ここでは地山の上面にわずかに墳丘盛土が残存する状況が確認されている。後世に大きく削平されているものの、墳丘の範囲がこのトレンチよりもさらに南へと広がること

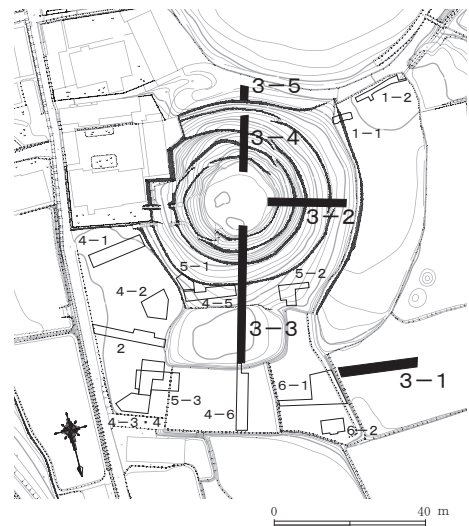


図9 第3次調査トレンチ位置（S=1/2,000）



が明らかとなった。

このように第3次調査では、茅原大墓古墳においてはじめて埴輪列が検出されるとともに、墳丘の立面構造を推定する上で手がかりを多く得ることができた。また、まとまった量の円筒埴輪が出土したことにより、この古墳の築造時期が古墳時代中期初頭頃（4世紀末頃）であることが明らかとなった。なお平成22年1月23日には、地元茅原区の住民を対象とした現地説明会を実施している。厳寒の折ではあったものの140人もの参加があり、この古墳に対する地元の関心の高さを窺い知ることができた。



写真2 第3次調査の様子

第4次調査 墳丘端および周濠の広がりを確認することを目的として、後円部東側から前方部北側にかけてトレンチを設定し調査を行った（第1～4、第6トレンチ）。また前方部の構造を確認すべく、東側くびれ部に近い前方部上面にもトレンチを設定している（第5トレンチ）。調査は平成22年11月16日～平成23年3月24日に実施された。調査面積は計238㎡で、6次にわたる調査の中でも最も規模の大きな調査となった（図10）。

第1トレンチ（35㎡）では、後円部東端の位置を確認することができた。墳丘端の位置は現況の高まりの裾より8m余り外側で検出されており、墳丘の周囲が後世に大きく削り込まれていることが明らかとなった。なお墳丘端の斜面には葦石が施されており、その外側では周濠堆積が確認されているが、周濠外側の立ち上がりを確認することはできなかった。

第2トレンチ（37㎡）は東側くびれ部の墳丘端を確認すべく設定された。ここでも葦石が施された

墳丘端の斜面が検出され、その外側で周濠堆積が確認されている。なおこのトレンチでは、くびれ部の墳丘端に近接する位置において、円筒状の埴輪の基部が樹立した状態で検出されている。これは後述のように、盾持人埴輪の基部と判断されるものであり、東側くびれ部の裾に盾持人埴輪が樹立されていたことが明らかとなっている。

第3トレンチは前方部北東隅の位置を確認すべく、当初25㎡（5m×5m）の規模で設定した。しかし周濠上面検出段階において、前方部東側面がさらに北側へと続く状況が確認されたことから、北側へ拡張している。その結果、周濠の北東端を確認すべく設定した第4トレンチ（当初2.5m×5mで設定）と結合することとなり、トレンチ面積は合わせて80㎡

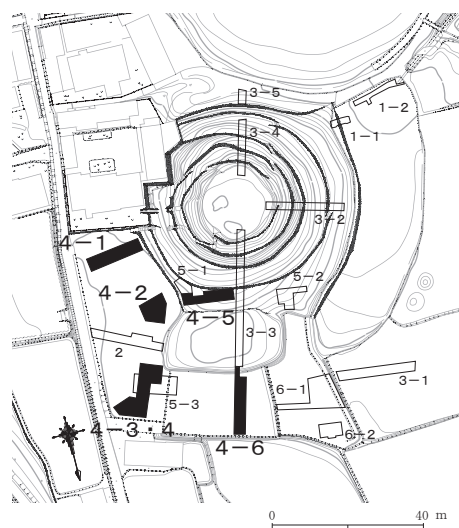


図10 第4次調査トレンチ位置（S=1/2,000）



写真3 第4次調査の様子

となった（「第3・4トレンチ」と呼称）。このトレンチでは、前方部の東側面ラインが、前方部北東隅の推定位置をはるかに越えて北側へと続き、そのまま周濠の外側へと連結するような状況が確認された。さらなる確認が必要であったが、時間的な制約もあったため、この箇所については翌年度に再度調査することと判断している。

第5トレンチ（38㎡）では、第3次調査で確認した前方部上面と後円部2段目平坦面の間の斜面の東延長部を確認し、加えて前方部東側面の2段目斜面を検出することができた。いずれも葺石が残存しており、これにより前方部は2段築成であることが明らかとなった。またこのトレンチでは、前方部上面において埴輪棺が検出されている。

前方部北側の第6トレンチ（48㎡）では、葺石を伴った前方部前面の墳丘端を確認し、さらにその北側約10mの地点において、周濠外側の立ち上がりを確認することができた。

第4次調査では様々な成果が得られているが、まず古墳の形態に関するところでは、墳丘端が複数の箇所を確認されたことにより、墳丘の平面形態を復元することができるようになっている。遺物で



写真4 第4次調査現地説明会の様子

は最古の事例となる盾持人埴輪が出土し、埴輪祭祀の変遷を考える上で注目される存在となっている。この第4次調査の成果については平成23年2月24日に記者発表を行い、同26日に現地説明会を開催している。説明会当日は好天に恵まれ、約2,000人の参加者があった。

第5次調査 東西の2段目くびれ部と、第4次調査で明らかにできなかった前方部北東側の状況を確認することを目的として、計3箇所にはトレンチを設定して実施された(図11)。調査期間は平成23年11月9日～平成24年3月27日で、調査面積は計102.5㎡である。

第1トレンチ(13.5㎡)は、第4次調査の第5トレンチで確認した前方部東側面の2段目斜面の南側延長部に設定された。ここでは葺石を伴う2段目斜面のくびれ部が確認されており、前方部と後円部の1段目平坦面が同一面をなしていることが確認された。西側の第2トレンチ(27㎡)では、東側と同様に2段目くびれ部が確認されるとともに、後円部側の1段目平坦面を巡る埴輪列が検出されている。またこの

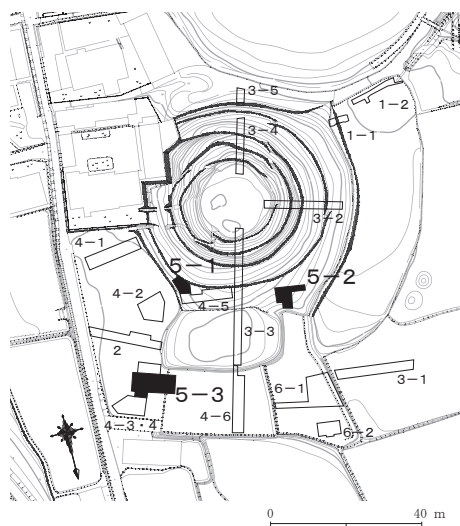


図11 第5次調査トレンチ位置 (S=1/2,000)



写真5 第5次調査の様子

1 段目平坦面には、前方部側と後円部側にそれぞれ 1 基ずつ埴輪棺が存在していた。

第 3 トレンチ (62m²) は前方部北東側において、第 4 次調査第 3・4 トレンチに一部重なるような形で設定された。このトレンチでは両側に葦石を施した渡土堤の南側部分が検出されている。渡土堤は第 4 次調査の成果を合わせて復元すると、長さ約 7 m、幅約 7 m で、前方部前面の東端付近から周濠の北側へと伸びるものであることが明らかとなった。

第 5 次調査の成果については、平成 24 年 2 月 15 日に記者発表を行い、同 18 日に現地説明会を開催している。説明会当日は時折吹雪に見舞われる極寒の一日であったが、約 700 人の見学者が足を運んで下さった。



写真 6 第 5 次調査現地説明会の様子

第 6 次調査 前方部の北西隅と、その北側の周濠の広がりを確認すべく、前方部の北西側の 2 箇所にトレンチを設定し調査を行った (図 12)。調査期間は平成 24 年 12 月 7 日～平成 25 年 2 月 23 日で、調査面積は計 98.5m² である。

第 1 トレンチ (76.5m²) は第 4 次・第 5 次調査で確認された前方部前面の西側延長部に設定し、前方部北西隅の位置を確認することを目指して当初 63m² のトレンチを設定した。ここでは前方部西側面に相当すると思われる地山の段差が検出されたが、その段差はトレンチ内で東へ回り込むことなく、北側の第 2 トレンチ (22m²) へと繋がることが確認された。こうした状況から、前方部北東側と同様に渡土堤が存在する可能性を考え、第 1 トレンチを東側に一部拡張したところ、前方部前面の周濠に向かって落ち込む地山の段差が確認された。これにより前方部北西側に渡土堤状遺構の存在を想定することができる。

なお第 1・第 2 トレンチともに周濠の外側の立ち上がりが検出されており、前方部西側の周濠幅は、北側に向かって狭くなるものであることがわかっている。

物理探査 平成 25 年 12 月 13 日から 19 日にかけて、後円部頂において埋葬施設等の状況を確認する

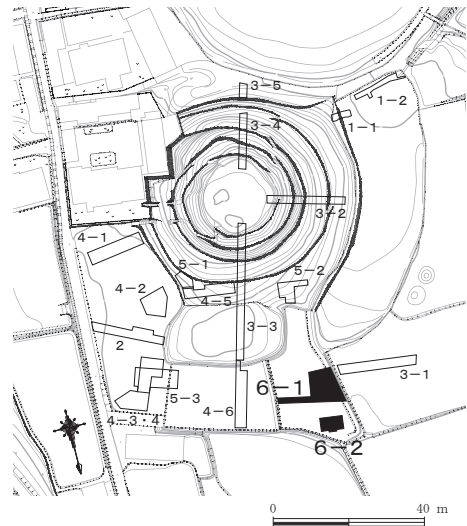


図 12 第 6 次調査トレンチ位置 (S=1/2,000)



写真7 第6次調査の様子

ための物理探査を実施している。後円部頂には現状で径18～20mの円形の平坦面が存在し、第3次調査でその外縁部分に埴輪列が残存する状況が確認されていることから、埋葬施設についても良好に残存している可能性が考えられた。この後円部頂の13m×13mの範囲において、地中レーダー探査と電気探査が実施された。

探査の結果、後円部頂では大きな攪乱等は見られず、埋葬時の状況が比較的良好に保たれている

と判断された。大きな石材の存在を示す反応は見られず、埋葬施設の形態としては竪穴式石室ではなく、粘土槨あるいは木棺直葬であると考えられる。また墓壙の詳細な形態は明らかではないが、墓壙は概ね南北方向に主軸を向いていると推定された。



写真8 物理探査の様子

3. 発掘調査・整理作業

(1) 調査・整理体制

平成7年度に実施された第1次調査は、ため池改修工事に先立つ緊急調査であり、桜井市教育委員会が調査主体となって発掘調査が行われた。第2次～第6次調査及び測量調査、物理探査は史跡整備に先立つ調査であり、これに伴う整理・報告書作成も含めて、桜井市教育委員会が国庫補助事業として実施しており、文化庁及び奈良県から補助を受けている。各年度の調査・整理体制は以下のとおりである。

【平成7年度（第1次調査）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 南正直 事務局長 沢井和彦 社会教育課長 高松隆司
社会教育課主幹 萩原義征 文化財係長 清水真一 主任 井上紀美

技師補 橋本輝彦

調査担当：橋本輝彦（社会教育課文化財係技師補）

調査補助員：栢本あずさ、村上薫史、小川裕子、小湊久美子、立田理

調査作業員：植田光雄、平岡高雄、佐野圭造、植西キヨ、嶋岡道子、辻カズコ

【平成20年度（第2次調査、測量調査、整理作業）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 雀部克英 事務局長 瀬川憲嗣 事務局次長 松田清吾

文化財課長 竹田勝彦 文化財課主幹 北浦良郎（文化財係長事務取扱）

主任 橋本輝彦、松宮昌樹、福辻淳 技師 丹羽恵二

臨時職員 木場佳子、橋爪朝子、福家恭、西岡恵美

調査担当：福辻淳（文化財課文化財係主任）

測量調査（委託）：株式会社アイシー

調査補助員：堂浦千景、相場さやか、岩田映、山本若菜

調査作業員：中西智子、澤田巳喜雄、宮久保吉障、甲谷郷美、甲谷晋平、生島紀夫、南幸弘、森貞之

【平成21年度（第3次調査、整理作業）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 雀部克英 事務局長 瀬川憲嗣 事務局次長 松田清吾

文化財課長 竹田勝彦 文化財係長 川口忠英

主査 橋本輝彦 主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二

臨時職員 木場佳子、福家恭、金松誠、武田雄志、荻谷史穂、西岡恵美

調査担当：福辻淳（文化財課文化財係主任）

調査補助員：堂浦千景、相場さやか、小島宏貴、甲谷晋平、友永奈津子、奥本恵理、小野善範

調査作業員：中西智子、澤田巳喜雄、宮久保吉障、甲谷郷美、生島紀夫、南幸弘、森貞之

【平成22年度（第4次調査、整理作業）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 雀部克英 事務局長 松田至功 事務局次長 竹田勝彦（文化財課長事務取扱）

文化財係長 橋本輝彦 主査 寺田智子 主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二

臨時職員 木場佳子、福家恭、武田雄志、荻谷史穂、西岡恵美

調査担当：福辻淳（文化財課文化財係主任）

調査補助員：堂浦千景、小島宏貴、甲谷晋平、広瀬侑紀

調査作業員：中西智子、澤田巳喜雄、宮久保吉障、甲谷郷美、生島紀夫、南幸弘、森貞之

【平成23年度（第5次調査、整理作業）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 雀部克英 事務局長 松田至功 事務局次長 竹田勝彦（文化財課長事務取扱）

纏向学研究センター設立準備顧問 寺澤薫

文化財課主幹 川本光司 文化財係長 橋本輝彦 主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二

技師補 森暢郎 臨時職員 木場佳子、福家恭、武田雄志、荻谷史穂、西岡恵美

調査担当：福辻淳（文化財課文化財係主任）

調査補助員：堂浦千景、小島宏貴、中尾美貴子、広瀬佑紀、千葉与寛、竹田一貴、高橋直大、

神所尚暉、栗原卓志

調査作業員：中西智子、澤田巳喜雄、甲谷郷美、南幸弘、森貞之

【平成24年度（第6次調査、整理作業）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 雀部克英 事務局長 清水孝夫 事務局次長 竹田勝彦（文化財課長事務取扱）

纏向学研究センター所長 寺澤薫

文化財係長 井前貴雄 調査研究係長 橋本輝彦 主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二

技師補 森暢郎 臨時職員 木場佳子、武田雄志、杉山真由美、西岡恵美

調査担当：福辻淳（文化財課文化財係主任）

調査補助員：堂浦千景、小島宏貴、中尾美貴子

調査作業員：中西智子、澤田巳喜雄、甲谷郷美、南幸弘、森貞之、北島弘

【平成25年度（物理探査、整理作業）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 雀部克英（～平成25年8月31日） 石田泰敏（平成25年10月1日～）

事務局長 田井中正行 事務局次長 竹田勝彦（文化財課長事務取扱）

纏向学研究センター所長 寺澤薫

文化財係長 井前貴雄 調査研究係長 橋本輝彦 主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二

技師補 森暢郎 臨時職員 木場佳子、杉山真由美、三沢朋未、西岡恵美

物理探査（委託）：桜小路電機有限会社

【平成26年度（整理作業、報告書刊行）】

調査主体：桜井市教育委員会

教育長 石田泰敏 事務局長 田井中正行 事務局次長 北光秀

文化財課長 渡辺芳久 纏向学研究センター所長 寺澤薫

文化財課主幹 井前貴雄（文化財係長事務取扱）

調査研究係長 橋本輝彦 主任 松宮昌樹、福辻淳、丹羽恵二 技師 森暢郎

臨時職員 木場佳子、三沢朋未、飯塚健太、中田いずみ、生島雅美、東絃子

（２）報告書作成

第１次～第６次調査の整理作業は、調査の実施と並行して着手している。このうち第１次～第４次調査の内容については、調査成果の公表と史跡整備事業を周知することを目的として、平成23年度に『史跡 茅原大墓古墳 第１次～第４次発掘調査概要報告書』を刊行している。

調査報告書作成作業は、第６次調査を行った平成24年度より開始している。第１次調査の成果については調査担当者である橋本輝彦氏の助言のもと福辻が報告し、第２次～第６次調査の成果については福辻および橋泉氏（甲賀市水口歴史民俗資料館）が報告している。なお各調査で検出された石材に関しては奥田尚氏（奈良県立橿原考古学研究所）より、後円部頂の物理探査の成果については西口和彦氏（桜小路電機有限会社）より玉稿を賜った。

【平成20年度～26年度（整理作業及び報告書作成）】

堂浦千景、友永奈津子、甲谷晋平、相場さやか、小島宏貴、竹内葉月、山本若菜、小野善範、奥本恵理、広瀬侑紀、中尾美貴子、千葉与寛、竹田一貴、高橋直大、神所尚暉、栗原卓志、嶋岡由美、西田千秋、井ノ本奈津子、河合陽子、吉川晴美、川田美和、柳原唯、太田久仁子、小松令子、橋泉

なおこのほか、調査・整理に際しては数多くの方々よりさまざまなご指導・ご協力をいただいた。ここにお名前を記し、感謝の意を表します。

青柳泰介 池田修 石野博信 一瀬和夫 伊藤聖浩 上田晃三 上田昭三 梅本康広 ト部行弘
岡林孝作 小栗明彦 金澤雄太 荻谷俊介 北山峰生 小池香津江 木場幸弘 西藤清秀
坂井秀弥 白石太一郎 菅谷文則 鈴木裕明 関川尚功 高橋克壽 辰巳和弘 常松幹雄 寺澤知子
寺前直人 豊岡卓之 中口勇 中村大介 瀬田佳男 萩原儀征 坂靖 東影悠 福永伸哉
福西貴彦 水野敏典 宮原晋一 森下章司 柳田康雄 山本廣幸 吉村和昭 和田萃 和田一之輔
茅原区の皆様